

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 令和5年度活動報告

添付書類①令和5年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会部会報告書

長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局

I 長浜米原しょうがい者自立支援協議会の概要

1 基本理念

地域自立支援協議会（以下「協議会」と言う。）の意義は、①相談支援を中心としたしょうがい者等への支援体制の整備を図ること、②「人と人をつなぐこと」、「地域で暮らし続けられるまちを作るための仕組みを発案して実働していくこと」、③「しょうがい福祉の関係者以外の人ともつながること」があります。

協議会運営の特徴として、「要求や陳情を行う側と受け止める側」といった関係性ではなく、立場や経験や職種の違う方たちが、同じテーブルに座って、一緒に汗をかきながら考え、知恵を出し合い、動いていくということにあります。協議会に必要なことは「対立」ではなく「協働」です。「誰かがやってくれる」「〇〇がこのようにすべきだ」ではなく、「目的を達成するためにはどうすればいいのか」を協議会の構成員一人ひとりが主体的に自分の頭で考えることが必要です。自分の所属の立場に拘束されず、無責任にならず、率直な話し合いができて、なにかが変わっていく夢や希望を持てる会議体にしていく意識をもって参加することが大切です。

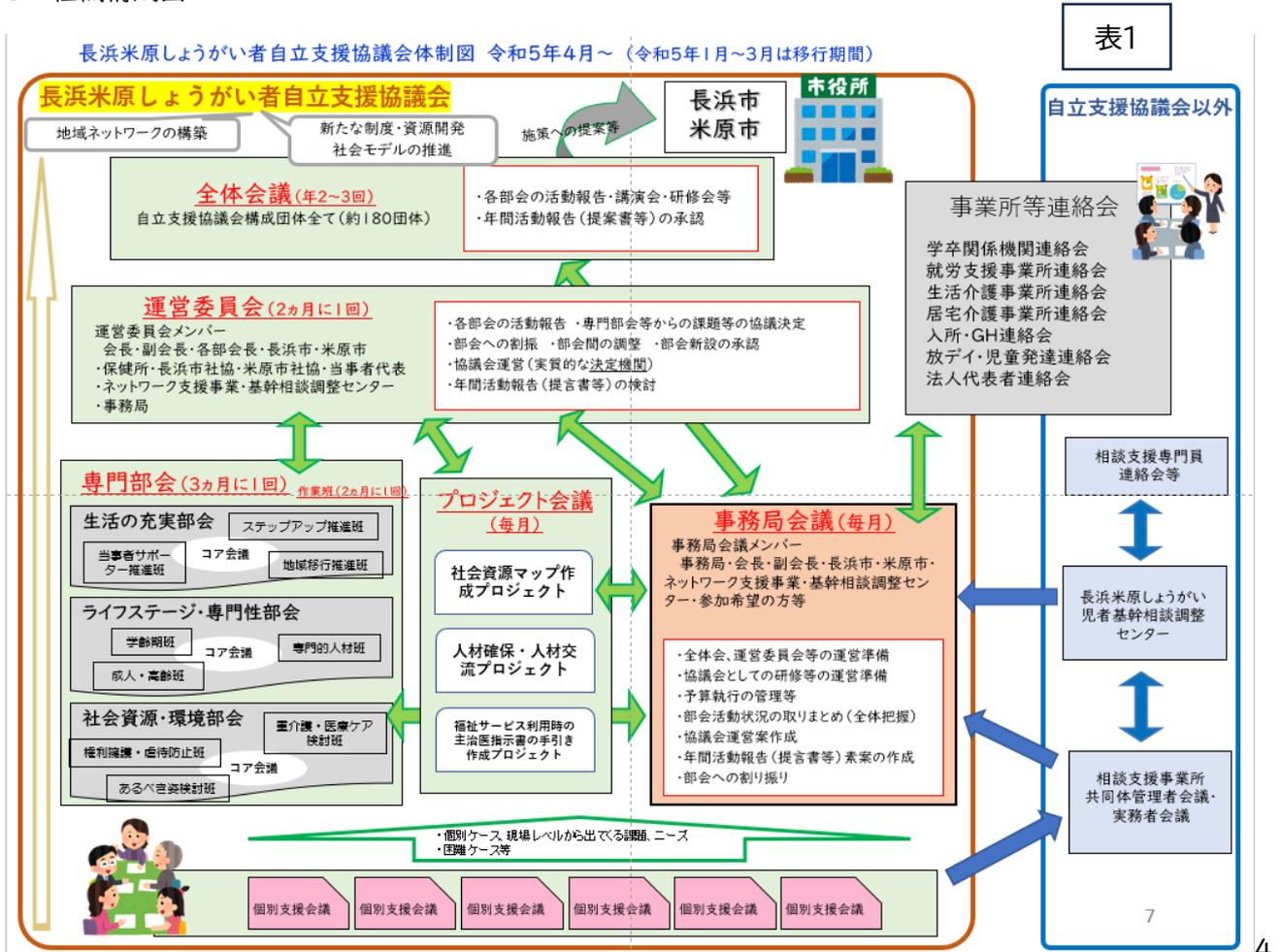
また、当事者が参画することで支援者同士では表出されないような課題も新しく出てくることを常に念頭におく必要があり、当事者が持つ思いこそがしょうがい者を支援する人々の最も重視すべきことであることを認識し、ともに住みやすいまちを作っていく活動が協議会の特徴になります。

現実的には多くの課題がありますが、優先順位をつけて「できることから行っていき」、「具体的な協議や取り組みを重ね、積み上げて」いきましょう。

2 目的・役割

協議会は、この湖北地域に暮らしているしょうがいのある人たちが、住み慣れた環境で、また住みたい場所で、いきいきと暮らし、共に育ち学び働き続けられることを目指し、しょうがいのある人たちとその家族、及び教育医療労働福祉その他携わる関係者が一緒になり課題を整理・協議して、解決していくものとする。そして、それを達成していくために、障害者権利条約や障害者基本法をベースとした、湖北地域全体で包括するような社会モデルのシステム・施策を立案し、推進していくことを目的とする。

3 組織構成図



4 令和5年度の取り組み方針

- 令和4年度6月～10月に3回実施した100人部会で集約したご意見等をもとに【プロジェクト会議】を創設。
- 100人部会で集約したご意見等+これまで専門部会で協議してきたことの継続性を踏まえた上で、【新たな部会等】の創設（専門部会等の再編）。
※各専門部会等の検討項目は、下記表2.3を参照。
- 専門部会等の在り方の変更に伴い、自立支援協議会全体の体制の見直し。
- 協議会の活動を見える化し積極的に発信（かわら版、年間スケジュールの決定、ホームページ活用、構成団体へのアンケート）
- 専門部会等の役割と専門部会協議事項を明確化

表 2

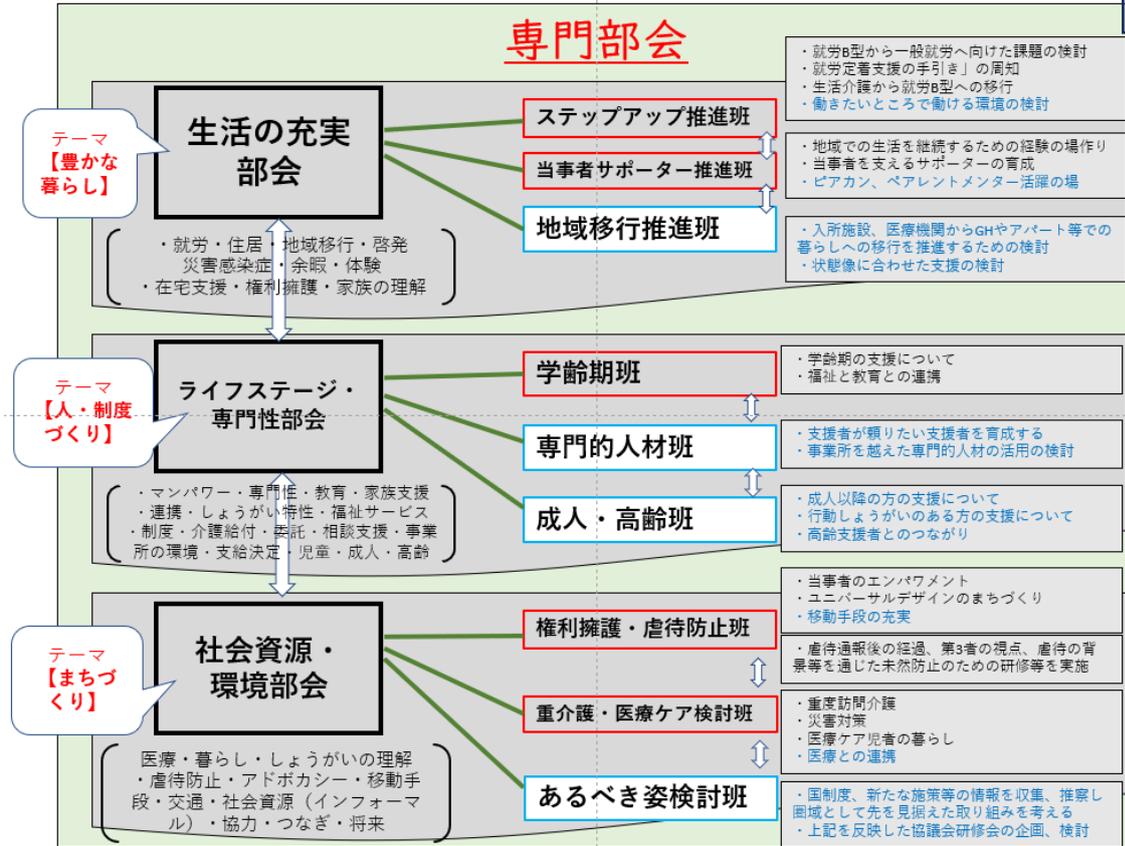
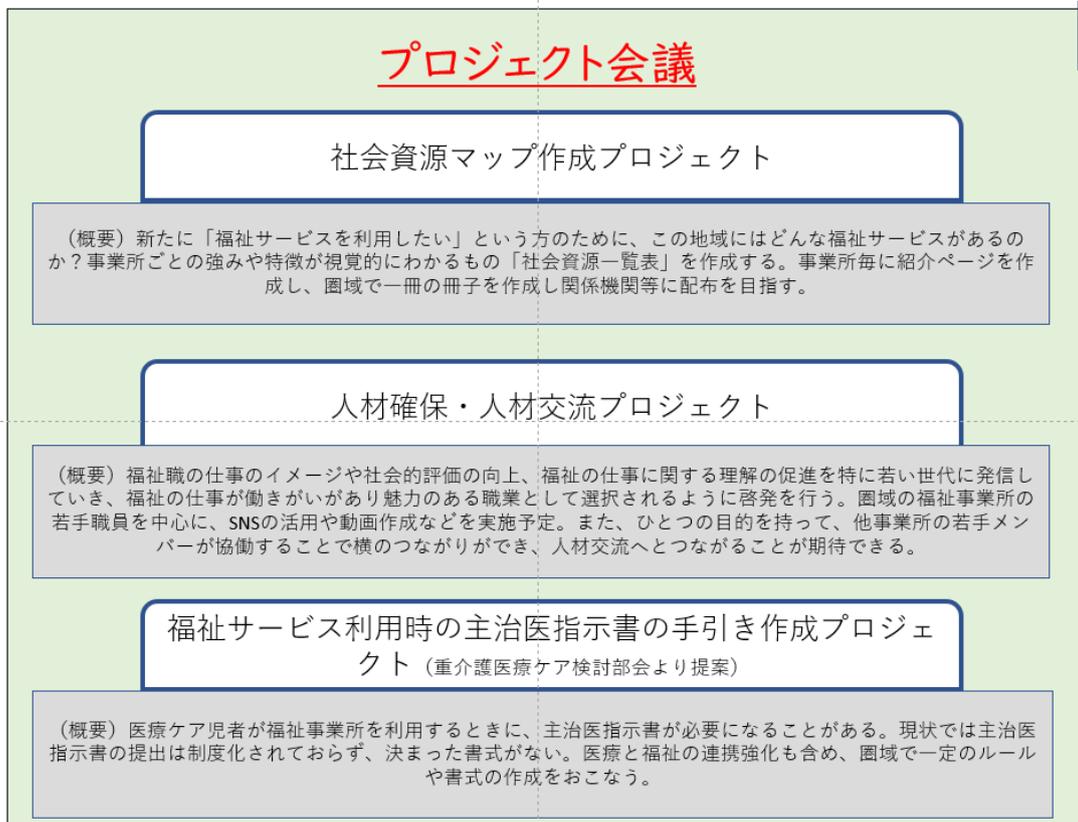


表 3



II 令和5年度自立支援協議会事務局機能（事務局会議/運営委員会）

I 事務局会議

■構成メンバー

会長：松本正志（湖北みみの里）

副会長：不在

しょうがい児者地域生活支援ネットワーク事業：高山徹/鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

しょうがい当事者代表：美濃部裕道（CIL だんない）

基幹相談支援センター：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）

行政（長浜市）：松尾知美（長浜市健康福祉部しょうがい福祉課）

行政（米原市）：上野高裕（米原市くらし支援部社会福祉課）

事務局：橋本宏美/喜田知之（湖北基幹相談支援センターふらっと）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月7日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター3A会議室	10
第2回	5月10日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター2B会議室	7
第3回	6月7日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター3A会議室	6
第4回	7月5日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター3A会議室	7
第5回	8月2日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター3A会議室	8
第6回	9月6日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンター3A会議室	8
第7回	10月4日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンター3A会議室	10
第8回	11月1日 13:30~14:50	長浜まちづくりセンター3A会議室	9
第9回	12月6日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター3A会議室	9
第10回	1月10日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンター3A会議室	10
第11回	2月7日 13:30~15:20	長浜まちづくりセンター3A会議室	11
第12回	3月6日 13:30~14:45	長浜まちづくりセンター3A会議室	10

2 運営委員会

■構成メンバー

会長：松本正志（湖北みみの里）

副会長：不在

しょうがい児者地域生活支援ネットワーク事業：高山徹/鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

しょうがい当事者代表：美濃部裕道（CIL だんない）

生活の充実部会長：西山和秀（湖北タウンホーム）

ライフステージ専門性部会長：川寄誠一（湖北相談処すだち）

社会資源環境部会長：河井孝典（重症心身障害者通所施設えがお）

社会資源マップ作成プロジェクト座長：高山徹（相談支援事業所ピットイン）

人材確保人材交流プロジェクト座長：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）

基幹相談支援センター：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）
 湖北健康福祉事務所：藤岡さと美（長浜保健所地域保健福祉係）
 長浜市社会福祉協議会：葛川豊（長浜市社会福祉協議会相談支援課）
 米原市社会福祉協議会：田中雄一（米原市社会福祉協議会相談支援課）
 行政（長浜市）：山口百博（長浜市健康福祉部しょうがい福祉課）
 行政（米原市）：清水正樹（米原市くらし支援部社会福祉課）
 事務局：橋本宏美/喜田知之（湖北基幹相談支援センターふらっと）



■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月19日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	13
第2回	6月21日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	14
第3回	8月16日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	14
第4回	10月18日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンターIC会議室	17
第5回	12月20日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	13
第6回	2月21日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンターIC会議室	15

3 かわら版の発行

協議会の活動を積極的に発信するために3回/年かわら版を発行し、構成団体へ送付。

ながはま まいばら しゃ 長浜米原しょうがい者 自立支援協議会

かわらばん
Vol.1

令和5年より新しい体制にてスタート!!

去る令和4年度、計3回実施してきました100人部会とこれまで継続的に専門部会と等々協議しました課題等を整理し、新たな自立支援協議会の体制を整えました。
(詳しい体制につきましてはホームページをご覧ください。)

新しい部会 の 活動が始まりました






1月30日
社会資源・環境部会

2月8日
ライフステージ・専門性部会

2月13日
生活の充実部会

部会では、参加された部会員さんが地域の課題と考えることについて意見をあげていただきました。

今年度は、部会終了ごとに部会報告3分動画を作成し、皆様に周知いたします。ホームページにあります、部会報告3分動画をぜひご覧ください。

4月からは各作業班、プロジェクト会議など積極的に活動しています。是非、積極的に部会活動にご参加いただき、皆さままで活気ある自立支援協議会を作りあげていきましょう!!!

今後の部会の予定について

自立支援協議会 についての予定およびお知らせはホームページに掲載しております。

ぜひホームページをご確認ください。

下記のURLもしくはQRコードをクリックしてください。

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 (kohoku-kikan.jp)



専門部会

- 社会資源・環境部会
- ライフステージ・専門性部会
- 生活の充実部会

プロジェクト会議

- 地域移行推進班
- 当事者サポート推進班
- 地域生活塾の実施、実施者の育成

事業所等連絡会

- 社会資源・環境部会
- ライフステージ・専門性部会
- 生活の充実部会

令和4年度 第2回 全体会議が開催されました

去る3月24日(金曜日)に全体会議が開催されました。参加者は会場に30名、オンラインで31人、合わせて61名の方々に参加いただくことができました。

令和4年度の部会の活動報告や新しく開設された事業所の紹介のほか、自立支援協議会の新しい体制についての説明が行われました。

今後の部会活動にむけて新しい部会長や部長に今後の抱負を話していただきました。






新部会長(しんぶかいちろう)のみなさま 会場(かいじょう)の様子(ようす)

今後の部会の予定について

自立支援協議会 についての予定およびお知らせはホームページに掲載しております。

ぜひホームページをご確認ください。

下記のURLもしくはQRコードをクリックしてください。

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 (kohoku-kikan.jp)



ながはま まいばら しゃ 長浜米原しょうがい者 自立支援協議会

かわらばん
Vol.2

4月より始まりました部会・作業班・プロジェクトはそれぞれ活発な協議や活動が開催されています。

今年度の部会作業班、プロジェクトの検討課題についてご紹介 します。

おしらせ **全体会議および『道草』上映会について**

9月25日(月)13:00より長浜まちづくりセンター2階多目的ホールにて令和5年度第1回全体会議が開催されます。今回は皆様とともに「地域共生社会のまちづくり」について考える機会としまして『道草』の上映会を実施したいと思います。ぜひご参加ください。

生活の充実部会・・・テーマ:豊かな暮らし

ステップアップ推進班
当事者が就労しようという意欲を高めるための分析・検討

地域移行推進班

地域で暮らすことを目指して、入所施設での生活の把握

社会資源・環境部会・・・テーマ:まちづくり

権利擁護・虐待防止班
権利擁護を含むソーシャルアクション。園遊会への参加およびバリアフリーマップの作成

ライフステージ専門性部会・・・テーマ:人・制度づくり

当事者のライフステージにおいて、次のステージを見据えた支援の必要性を考慮

成人・高齢者

強度行動障害のアンケート集計を多角的に分析した結果をもとに次の展開を考慮

福祉サービス利用時の

主治医指示書の取り扱いプロジェクト
地域で一定のルールづくりや書式の作成を行う取り組み

社会資源・環境部会・・・テーマ:まちづくり

権利擁護・虐待防止班
権利擁護を含むソーシャルアクション。園遊会への参加およびバリアフリーマップの作成

地域移行推進班

地域で暮らすことを目指して、入所施設での生活の把握

社会資源・環境部会・・・テーマ:まちづくり

権利擁護・虐待防止班
権利擁護を含むソーシャルアクション。園遊会への参加およびバリアフリーマップの作成

おしらせ 全体会議および『道草』上映会について

9月25日(月)13:00より長浜まちづくりセンター2階多目的ホールにて令和5年度第1回全体会議が開催されます。今回は皆様とともに「地域共生社会のまちづくり」について考える機会としまして『道草』の上映会を実施したいと思います。ぜひご参加ください。

上映会につきましては、おのれ、みなさまにご覧いただきたく、全体会議当日は、ご覧いただきたく、全体会議当日は、一日を通して3回の上映会を開催いたします。上映時間や場所等詳しくは、各関係機関に郵送させていただきます。ご案内およびホームページをご確認ください。



【発行者】
長浜米原しょうがい者自立支援協議会
事務局 湖北基幹相談支援センター
電話:0749-78-2144 FAX:0749-78-2212
Eメール:kikanhouse@nasahama-shakyo.or.jp
ホームページ https://www.kohoku-kikan.jp/

【地域生活塾】

「ピア・カウンセリング」の様子



【福祉サービス利用時の

主治医指示書の取り扱いプロジェクト

【地域生活塾】

「ピア・カウンセリング」の様子



ながはままいばら
**長浜米原しょうがい者
自立支援協議会**

**かわら版
Vol.3**

がつ にち れいわ ねんどだい かいぜんたいかいぎ えいが みちくさ
**9月25日に令和5年度第1回全体会議と映画『道草』
の上映会 が開催されました**

ぜんたいかいぎ かくぶかい およ かいぎ ほうこく ちいききょうせいしゃかい
全体会議 では各部会 及びプロジェクト会議の報告のほか、「地域共生社会のまちづくり」
について考 える機会として映画『道草』の上映会 を実施しました。
えいがかい けんいきみんせいじんじどういん さんか ぶ おお かつがた かんしやう
映画会につきましては、園城の民生委員児童委員 にも参加を呼びかけ、多くの方々に鑑賞
していただくことができました。『道草』を通して、どんなに障害 が重くても「この場所で暮ら
したい」というしょうがい当事者 の思いとそれに寄り添う支援者による『ともに生きる姿』とも
まら ほんりやう
にある街』についてアンケートで多くの反響 をいただきました。




立支援協議会 全



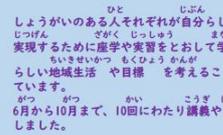




このかい しょうがい させていただいていない、さぎょうはん かいぎ おお
今回、ご紹介 させていただいていない、作業班・プロジェクト会議も大いに
も あ しょうがい
盛り上がっています。今後もどんどんご紹介 させていただきます。

ただいま活発に活動中!! 活動の一部を紹介します。

【地域生活塾】 ちいきせいかつじゆく
せいかつ じゅうじつぷかいとうじしや
生活の充実部会 当事者サポーター推進班

しょうがいのある人それぞれが自分らしい生活 を
じつげん さがく じししやう まな じぶん
実現するために産学や実習をとおして学びあい、自分
らしい地域生活 や目標 を考えることを目的とし
ています。 ちいきせいかつ もくひやう かんが もくてき
がつ がつ かい こうぎ じししやう じしし
6月から10月まで、10回にわたり講義や実習 を実施
しました。

【園遊会 DEソーシャルアクション】
えんゆうかい て
しょうがいしげんかんきょうぶかい けんりやうご-ぎやくたいほうしはん
社会資源環境部会 権利擁護・虐待防止 班

がつ にち ど だいじゅうじしやうへん
10月14日(土)大通寺 周辺 にて




ながはままいばらしょうがい
【長浜 大園遊会】
ぜんこく-あつ きものすがた
全国から集まった、着物姿
ついでにながはま まち
の人々が長浜 の街を
あちこちをめぐらす
そぞろ歩く日本有数の
の
着物イベントです。
くま
いすユーザーの方々、と
どもに参加しました。

研 修 会 (各作業班主催)
けんしゅう かい かくさぎょうはんしゆざい
しょうがいしげんかんきょうぶかい すがたけんとうはん がつ にち じしし
○社会資源環境部会 あるべき姿 検討班 (10月16日に実施)
じゆくやう じやうかい けんた ちいききんかんとくふくしけい
【持続可能な社会 を目指すための地域循環型福祉経済 という考え方】
こうし ほんかかんすけし きんじやうがくいんたいがくにんげんかかぐぶじゆんきやうじゆ
講師：橋川 健祐 氏 (金城学院大学 人間科学部 准教授)

せんもんせいじぶかい かくれいきはん がつ にち じしし
○ライフステージ専門係部会 学割期班 (11月24日に実施)
こども かがが
【子供のアドボカシーについて考 えませんか?】
こうし くりた としか し みえたいがくきやういやくおとくべつしえんきやういじゆんきやうじゆ
講師：栗田 季佳 氏 (三重大学教育学部 特別支援教育 准教授)

Ⅲ 令和5年度プロジェクト会議活動報告

Ⅰ 社会資源マップ作成プロジェクト会議

■目的

新たに「しょうがい福祉サービスを利用したい」という方のために、湖北圏域にはどのような障害福祉サービス事業所があるのか、また事業所の強みや特徴、位置関係などが視覚的にわかるもの「社会資源マップ（障害福祉サービス事業所一覧）」を作成する。事業所ごとに紹介ページを作成し、圏域で一冊の冊子を作成し、関係機関等への配布を目指す。

■参画事業所等

座長：高山徹（相談支援事業所ピットイン）

参画：（湖北基幹相談支援センターふらっと/相談支援事業所ピットイン/長浜市しょうがい福祉課/湖北健康福祉事務所/CIL だんない）



■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月14日13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室	10
第2回	5月12日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	8
第3回	7月14日13:30~15:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	8
第4回	8月18日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	7
第5回	10月13日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	6
第6回	11月10日13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	6

第7回	12月8日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	6
第8回	1月12日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	6
第9回	2月9日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンター1C会議室	7
第10回	3月8日 13:30~14:40	長浜まちづくりセンター3A会議室	6

■評価

当初目的としていた、湖北圏域の障害福祉サービス事業所一覧は完成させることができた。また、事業所の位置関係を地図に示すこともできた。ただし、事業所情報の書式また地図の掲載方法などにおいては、さらなる改善が必要。湖北圏域にあるすべての事業所を掲載することはできなかった。

今後の課題については、①最低1回/年の情報更新とその管理が必要、②冊子制作等々の継続的な予算の確保、③障害福祉サービス事業所だけではなく、公的機関・病院・高齢者施設・インフォーマル資源・店舗のバリアフリー情報なども含めたものの制作が期待される。

■成果物

社会資源マップ（障害福祉サービス事業所一覧）【令和5年度版】

（発行：長浜米原しょうがい者自立支援協議会 社会資源マップ作成プロジェクト会議 2024.3）



オンライン版マップ → <https://www.kohoku-kikan.jp/mappro>



2 人材確保人材交流プロジェクト会議

■目的

福祉の仕事が社会的に認知・評価され、若い世代の方々を中心に魅力ある職業として選択されるきっかけとなるよう「福祉業務及び湖北地域の魅力発信の取組み」を実施し、福祉職の仕事のイメージや社会的評価の向上、福祉の仕事に関する理解の促進により、人材確保・定着の促進を図る。

■参画事業所等

座長：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）

参画：（湖北基幹相談支援センターふらっと/相談支援事業所ピットイン/長浜市しょうがい福祉課/湖北健康福祉事務所/米原市社会福祉課/湖北地域障害者生活支援センターあ〜と/湖北相談処すだち/湖北タウンホーム/大空ひだまり/滋賀県介護・福祉人材センター/CREATIVE STUDIO act）



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月12日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	10
第2回	5月17日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	17
第3回	6月14日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	16
第4回	7月12日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第5回	8月9日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第6回	9月20日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター1B会議室	9
第7回	10月11日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター多目的ホール	14
第8回	11月8日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター多目的ホール	11

第9回	12月13日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター1B会議室	14
第10回	1月17日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター2AB会議室	13
第11回	2月14日 13:30~14:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	14
第12回	3月13日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	12

■活動実績(撮影/事業所訪問)

日時	場所	内容	参加人数
11月6日(月) 16:00~17:00	長浜市社会福祉協議会湖北センター	ダンス場面の撮影	2
11月8日(水) 14:00~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	ダンス場面の撮影	11
11月22日(水) 13:30~17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	動画本編の撮影	4
12月4日(月) 11:00~12:00 18:00~19:30	社会福祉法人ひだまり近江事業所	動画本編の撮影	6
12月13日(水) 13:30~14:30 15:30~17:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	ダンス動画の撮影 動画本編の撮影	14
12月20日(水) 14:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	協議会運営委員会メンバー によるダンス動画の撮影	15
12月22日(金) 9:00~13:00	長浜まちづくりセンター調理室/長浜図書館	動画本編の撮影	7
12月25日(月) 10:00~11:00	社会福祉法人湖北会 GH のぞみ	動画本編の下見/打合せ	5
12月26日(火) 9:00~11:00	社会福祉法人湖北会 GH のぞみ	動画本編の撮影	6
12月26日(火) 11:30~12:30	社会福祉法人湖北会ライフまいばら	動画本編の撮影	6
12月26日(火) 15:00~18:00	豊公園	動画本編の撮影	5
12月27日(水) 9:00~11:30	長浜市社会福祉協議会湖北センター	動画本編の撮影	6
1月17日(水) 14:30~15:30 15:30~17:00	長浜まちづくりセンター2AB 会議室/1C会議室	動画本編のナレーション撮り	13
1月19日(金) 18:00~19:00	長浜まちづくりセンター多目的ホール	ダンス場面の撮影	5
1月27日(土) 11:00~12:00	長浜まちづくりセンター多目的ホール	ダンス場面の撮影	5
2月2日(金) 19:00~20:00	長浜まちづくりセンター多目的ホール	ダンス場面の撮影	22
2月2日(金)	長浜まちづくりセンター1B 会議室	動画本編の撮影	4

13:30~17:00			
2月9日(金) 8:30~9:30 11:00~12:00	長浜市社会福祉協議会湖北センター/ 長浜まちづくりセンター多目的ホール	ダンス場面の撮影	15
2月13日(火) 14:00~15:00	社会福祉法人ひだまり近江事業所	ダンス場面の撮影	16

※述べ撮影時間:約 36 時間 / 述べ撮影参加人数:167 名

■評価

①動画制作というひとつの目的をもってさまざまな関係者が協働することで、他法人他事業所の職員同士がつながることができた。そういった活動こそが自立支援協議会の意義ではないか。

②しょうがい福祉の仕事は直接的な介護だけではなく、日頃の寄り添いや悩み事の相談など多岐に渡る。一般的な「福祉・介護」と聞いて想像するような支援ではない部分に着目して動画を作成し、しょうがい福祉の仕事の魅力についてメンバー自身も改めて認識できることができた。またしょうがい福祉の仕事を知らない方々に対してもしょうがい福祉の仕事の魅力を発信できる動画となった。

③福祉の仕事”PR”と聞くと、「職員インタビュー」「職員の一日の業務紹介」「仕事のやりがい紹介」などが多いが、今回作成した動画は、上記のようなありふれたものではなく、しょうがい福祉の現場で働く職員がダンスや演技をしているというユニークな動画となっている。そのようなユニークな動画を作るということにも協力的な湖北圏域のしょうがい福祉関係者、地域であるという魅力を動画を通じて伝えることができた。

④動画制作を通じて圏域に「笑顔」や「元気」を与えることができた。

⑤日常業務とはまったく違うこと(演技、動画制作、ダンス)に取り組むことで、新たな体験と心のリフレッシュにもつながった。

⑥動画を作っていく中で改めて、しょうがい福祉の仕事の魅力に気づくことが出来た。

⑦撮影でさまざまな事業所へ赴くなかで、事業所とそこで働く職員の雰囲気などを知ることが出来た。

今後の課題として、①今回の成果物により人材確保につながったのか、人材確保に関して一定のプラス面があったのかを今後評価する場が必要か。また、一定の実績があった場合に、PR 動画制作の継続が可能か。

②人材交流についてプロジェクト会議を通して一定の成果は得られたが、今後湖北圏域で法人を超えた交流事業については、他の部会等で継続的な取り組みが必要。

■成果物

- ・動画(短編映画)「笑顔のチカラ」、「笑顔のチカラ」(ダイジェスト版)、「笑顔のチカラ」(ダンスシーン)
- ・周知啓発用チラシ/パンフレット



短編映画 「笑顔のチカラ」フルバージョン	https://youtu.be/mwbH9LN-kyw	
「笑顔のチカラ」ダイジェスト版	https://youtu.be/96nSBjEdUpg	
「笑顔のチカラ」エピソード1	https://youtu.be/k-dTvYeZ7iQ	
「笑顔のチカラ」エピソード2	https://youtu.be/MRDb2F78p34	
「笑顔のチカラ」エピソード3	https://youtu.be/Rf-wUgAwzQs	
「笑顔のチカラ」ダンス動画	https://youtu.be/jCCf39XLAcc	
「笑顔のチカラ」スペシャルサンクス	https://youtu.be/fD49wvjV9y8	

※動画に関しては、当協議会構成団体の方であればご自由に使用していただけます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

IV 令和5年度専門部会活動報告

I 生活の充実部会

■目的

部会のテーマ【豊かな暮らし】を実現するために、「ステップアップ推進班」「当事者サポーター推進班」「地域移行推進班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理などをおこなう。

■参画事業所

部会長：西山和秀（湖北タウンホーム）

世話役：高山徹/鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/障害児者地域生活ネットワーク支援事業）

参画：（ステップアップ推進班/当事者サポーター推進班/地域移行推進班のメンバー）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	6月8日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	14
第2回	9月14日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第3回	12月14日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター多目的室	10

※会議の開催前にコアメンバー（部会長/座長）でコア会議を実施。

■評価

地域で暮らすために必要な住居・役割（仕事）等について、各作業班での取り組み共有だけでなく、意見交換や協議を実施。次年度については、この地域で暮らすことについてより良くするための具体的な取り組みや、必要な施策・サービスについても協議していく。

(1) ステップアップ推進班

■検討テーマ

- ①就労継続支援B型から一般就労へ向けた課題の検討
- ②「就労支援の手引き」の周知
- ③生活介護から就労継続支援B型への移行
- ④働きたいところで働ける環境の検討

■参画事業所等

座長：神田航平（ワークスさぼてん）

参画：（ワークスさぼてん/フォーユー/障がい者相談支援センターほたる/あっぷでーと/スマイルカレッジ/愛光園/長浜みなみ共同作業所/はたらき・暮らし応援センターこほく/障害者支援センターそら/つどい/ひかり園・輝湖里/ワークスさかた/リアファル/友愛ハウス・ワークセンター絆/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課）



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月20日 13:15~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	15
第2回	6月15日 13:15~15:00	長浜まちづくりセンターIB会議室	14
第3回	9月21日 13:15~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	15
第4回	10月12日 13:15~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	17
第5回	12月21日 13:15~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	15
第6回	2月15日 13:15~14:20	長浜まちづくりセンターIB会議室	13

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■評価

就労支援の手引き書の見直しを行うために圏域の福祉事業所へアンケート調査を実施し、アンケート調査の質問についても回答をおこなった。ステップアップ推進班のメンバーの中でも「手引き書が参考になった」「他事業所の職員と意見交換ができてよかった」と感想を頂いた。

■今後の課題（継続課題）

- ①個別ケースを通じて、就労継続支援 A/B 型からの一般就労等への手立てを共有し、具体的に推進していく動きが必要。
- ②就労選択支援サービス運用に伴い、「就労支援の手引き」の修正・変更が必要。

(2) 当事者サポーター推進班

■検討テーマ

- ①地域での生活を継続するための経験の場作り
- ②しょうがい当事者を支えるサポーターの育成
- ③ピアカン、ペアレントメンター等活躍の場

■参画事業所等

座長：野寺英里香（湖北相談処すだち）

参画：（CILだんない/えがお/障がい者相談支援センターはたる/愛光園/相談支援事業所ピットイン/友愛ハウス・ワークセンター絆/ふくらの森/ニチイケアセンター米原/こほく自立応援センター/マルチスイッチ/湖北基幹相談支援センターふらっと/ルピナス/米原市社会福祉課/長浜市しょうがい福祉課）



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月26日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	14
第2回	5月24日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンターIC会議室	15
第3回	6月28日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	8
第4回	7月26日 13:30~15:15	長浜まちづくりセンターIC会議室	8
第5回	8月23日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	9
第6回	9月27日 13:30~14:20	長浜まちづくりセンターIC会議室	6
第7回	10月25日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	8

第8回	11月22日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター2AB会議室	7
第9回	12月27日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	6
第10回	2月28日 13:30~15:00	長浜市役所	8
第11回	3月27日 13:30~15:00	米原市役所	8

■活動実績（地域生活塾）

回	日時	内容	参加数 (人)
第1回	6月3日 13:30~16:30	地域生活塾活動	24
第2回	6月17日 13:30~14:45	地域生活塾活動	16
第3回	7月1日 13:00~16:00	地域生活塾活動	14
第4回	7月15日 11:00~14:00	地域生活塾活動	15
第5回	8月8日 13:00~16:00	地域生活塾活動	14
第6回	8月19日 10:00~15:00	地域生活塾活動	12
第7回	9月2日 10:00~15:00	地域生活塾活動	15
第8回	9月16日 10:00~15:00	地域生活塾活動	12
第9回	10月7日 13:00~15:00	地域生活塾活動	11
第10回	10月21日 13:00~14:00	地域生活塾活動	16

※地域生活塾活動予定表は下記表4参照

れいわ ちんご 令和3年度 **こほくちいま 湖北地域**

ちいせいかつじゅく
地域生活塾

～自分らしい地域生活をめざして～

さんかしゃばしゅう
参加者募集

募集期間: 令和3年3月31日(水)まで

募集定員: 10名程度

会場: 長浜まちづくりセンター
(さざなみタウン) ほか

参加費: 無料

※活動時の交通費、食事代などは自己負担です。

「地域で生活するって、なんだろう…」
「ひとり暮らしをしてみたいけど、どうすればよいかわからない…」などと思いを抱えているみなさん！
活動や研修に参加して、自分の将来の生活や、そのために学べることを学びましょう。

会場地図

対象: 湖北地域（長浜市、米原市）在住の身体しょうがい者、精神しょうがい者、知的しょうがい者で、将来的に自立生活を考えている次のような方。

- ひとりで自立して生活するための方法を知りたい。
- 自立生活について考え、自分に必要なことを発見したい。
- 自分の将来の生活を考えたい。
- その他、本塾の受講に関心のある方 など

日時・内容: 裏面のとおり

申込み: 別紙の申込書を記入して、郵送、メール、FAXで申し込みください。

表 4

令和5年 湖北地域生活塾日程表			2023年7月8日	
	日程	内容	場所	
1	6月3日 (土)	13:00~14:00 【講義】自立生活について	①入塾式 ②自立生活についての話を聞いて、将来の自立生活について考えましょう。みんなで話すときと、1対1になって話あうことがあります。	長浜まちづくりセンター1C
		14:15~16:15 【スライドにて見学】自立生活者の自宅		
2	6月17日 (土)	13:00~14:45 【振返り】自立生活者の自宅訪問 【講義】ピアカウンセリング①	①自立生活についておさらいをします ②ピアカウンセリングとは何か、講義を受けます	長浜まちづくりセンター1C
3	7月1日 (土)	13:00~15:00 【講義】ピアカウンセリング② 【講義】ピアカウンセリング③	①「今後の夢、目標」について話し合います。みんなで話すときと1対1になって話あうことがあります。 ②「今後の夢、目標」について話し合います。みんなで話すときと1対1になって話あうことがあります。 ③食事会の計画をたてます	長浜 まちづくりセンター2AB
		15:00~16:00 【計画】フォーマルスタイルで食事会		
4	7月15日 (土)	11:00~14:00 【実習】フォーマルスタイルで食事会 市内レストランでランチ	おしゃべりして食事会に行きましょう	北ビワコホテルグロッツェ 1階ホールに集合
5	8月5日 (土)	13:00~15:00 【振返り】フォーマルスタイルで食事会 【講義】障害者と権利① 休憩 【講義】障害者と権利②	①食事会のふりかえりをします。 ②自分たちの権利について学びます。 ③調理実習の計画をたてましょう。調理をするのは塾生のみなさんです。調理するメニューを考えてください。	長浜 まちづくりセンター1B
		15:00~16:00 休憩 【計画】調理実習の計画		
6	8月19日 (土)	10:00~12:00 【実習】調理実習	計画したことをもとに調理実習をします。 (材料は自分で用意してください)	長浜 まちづくりセンター 調理室 1A
		13:00~15:00 【振返り】調理実習 【計画】フィールドトリップ①(市内)の計画	①調理実習のふりかえりをします。みんな感想を話し合いましょう。 ②みんなでへ出かける計画をたてます。 (長浜市内)	
7	9月2日 (土)	10:00~12:00 【実習】フィールドトリップ①(市内) 【昼食】食事会	市内へ出かけます。交通費や食事代などは自分で用意してください。	未定 (決まったらお知らせします)
		13:00~15:00 【振返り】フィールドトリップ①(市内) 【計画】フィールドトリップ②(市外)の計画	①ふりかえりをします。楽しかったことや困ったことなどをみんなで話しましょう。 ②みんなで出かける計画を立てます。 (長浜市以外)	
8	9月16日 (土)	10:00~15:00 【実習】フィールドトリップ②(市外) :公共交通機関利用	公共交通機関を利用して市外へ出かけます。交通費や食事代などは自分で用意してください。	未定 (決まったらお知らせします)
9	10月7日 (土)	13:00~15:00 【振返り】フィールドトリップ②(市外) 【講義】福祉サービス等の制度(60分)	①ふりかえりをします。楽しかったことや困ったことなどをみんなで話しましょう ②生活に必要な福祉サービスを学びます。	長浜まちづくりセンター1C
		15:00~17:00 【スライドにて見学】福祉サービス(居宅介護)利用中の自宅訪問		
10	10月21日 (土)	13:00~14:00 【振返り】福祉サービス(居宅介護)利用中の様子 卒業式	自立生活に必要なサービスについて自分のおもいや将来の生活について話し合いましょう。	長浜まちづくりセンター1C

■評価

当事者サポーター推進班としての在り方と具体的な役割を明確化することができた。また、当事者サポーター推進班から【地域生活塾】を取り出しプロジェクト化し、地域生活塾の講座内容・運営の在り方等を含め、具現化する為の会議と取り組みを行い、目標として令和7年度に新しい体制で運営を開始できるようにプロジェクトを発足させた。(詳細は P49 参照)

■今後の課題（継続課題）

①しょうがい当事者をサポートするのは、しょうがい当事者であるという視点に注目しピアカン活動の重要性について具体的に活動しながら周知啓発を実施。ピアカンの視点から学ぶ支援者としての心構えを知る機会にもしていく。

(3) 地域移行推進班

■検討テーマ

- ①入所施設、医療機関からの GH やアパート等での暮らしへの移行を推進するための検討。
- ②状態像に合わせた支援の検討

■参画事業所等

座長：西山和秀（湖北タウンホーム）

参画：(CIL だんない/相談支援事業所ピットイン/障害者支援センターそら/あそしあ/湖北健康福祉事務所/滋賀県地域定着支援センター/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課)



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月9日 13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室 A	8
第2回	7月18日 13:30~15:00	湖北会あそしあ	10
第3回	9月22日 13:30~15:40	湖北タウンホーム	9
第4回	11月13日 13:30~15:15	ソーシャルインクルーホーム長浜大寺町	5
第5回	2月29日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター2AB会議室	7

■活動実績（定例会議以外の活動）

- ・ 9月11日 13:30~16:30 に湖東地域障害者自立支援協議会地域移行部会で開催された「地域移行について考える」研修会へ班メンバー数名で参加。
- ・ 1月25日 13:30~15:30 に開催された「湖北地域精神しょうがい者支援会議」に座長と事務局が出席。

■評価

圏域にある入所施設・GH での情報収集と意見交換、精神しょうがい者支援の実情についての情報収集と意見交換ができました。次年度に向けては、具体的なケースの地域移行実現について取り組んでいく。

■今後の課題（継続課題）

- ①医療機関からの地域移行、入所施設からの地域移行の壁となる一つのおおきな要因として「お金」の問題がある。金銭的に難しいことから地域移行を諦めざるえないケースがあるのが実態。家賃補助の拡大などの施策を提案していくことができれば良い。
- ②地域移行に向けた具体的なケースの検討。施設や相談支援専門員だけで考えて行動に移すのは大きな労力を要するので、そういったケースに地域移行推進班して後方支援ができると良い。（地域全体で地域移行を推進するという取り組み）

2 ライフステージ専門性部会

■目的

部会のテーマ【人・制度づくり】を実現するために、「学齢期班」「専門的人材班」「成人高齢班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理などをおこなう。

■参画事業所

部会長：川崎誠一（湖北相談処すだち）

世話役：高山徹/鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/障害児者地域生活ネットワーク支援事業）

参画：(学齢期班/専門的人材班/成人高齢班のメンバー)

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月11日10:00~12:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	24
第2回	8月10日10:00~12:00	神照まちづくりセンター会議室A	12
第3回	11月24日10:00~12:00	神照まちづくりセンター会議室AB	42
第4回	2月8日10:00~11:15	長浜まちづくりセンターIC会議室	20

※会議の開催前にコアメンバー(部会長/座長)でコア会議を実施。

■評価

グループに分かれて各作業班の活動状況や検討事項について共有と意見交換を行った。重複する課題がでてきたので、部会内で検討テーマの整理を行った。

(1) 学齢期班

■検討テーマ

- ①学齢期の支援について
- ②福祉と教育の連携

■参画事業所等

座長：川崎誠一(湖北相談処すだち)

参画：(キッズパーク放課後等デイサービスすまい学舎/フォーラムまこと/CIL だんない/キッズステーション長浜/長浜市教育センター/えがお/長浜市発達支援室/米原市発達支援センター/長浜市相談支援事業所/湖北地域障害者生活支援センター「あ〜と」/米原市児童発達支援センターてらす/スポーツひろばアクトNEXT/ひので/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課/相談支援事業所ピットイン/当事者ご家族/長浜養護学校/滋賀県発達障害者支援センター/長浜市議会議員)



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月26日 10:30~12:00	神照まちづくりセンター会議室 A	21
第2回	5月26日 10:00~11:30	長浜まちづくりセンター IC 会議室	17
第3回	7月14日 10:00~11:30	長浜まちづくりセンター IC 会議室	14
第4回	9月22日 10:00~11:30	長浜まちづくりセンター IC 会議室	22
第5回	11月24日 10:00~12:00	神照まちづくりセンター会議室 AB	42
第6回	1月26日 10:00~11:30	長浜まちづくりセンター IC 会議室	14
第7回	3月19日 10:00~11:00	神照まちづくりセンター会議室 A	10

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■活動実績（定例会議以外の活動）

- ・ 上記第5回の会議は、構成団体すべてを対象とした研修会を実施
 テーマ：「こどものアドボカシーについて考えませんか」
 講師：三重大学教育学部特別支援教育准教授 栗田李佳氏

こどもの アドボカシーについて 考えませんか！？

アドボカシーとは、「権利」「支持」という意味で、個人が本来持っている権利をさまざまな理由により行使できない人に代わり、その実現を支援する仕組みのことを言います。

参加費無料

2023年11月24日(金)
10:00~12:00

【会場参集とオンラインのハイブリッド式開催】

会場：神照まちづくりセンター会議室AB
(住所/長浜市神照町286-1)

オンライン参加の方は、申込書に記入していただいたメールアドレスへ後日ZOOM案内をお送りします。

対象者：障害福祉サービス事業所等職員
関係機関、興味のある方

定員：会場30名/オンライン30名
(定員超過により受講できない場合のみ事務局より連絡させていただきます。)

申し込み締め切り / 11月17日(金)

■別紙申し込み書、または右記QRコードを読み込み必要事項をご記入の上、お申し込みください。
※手話通訳が必要な方は、申込書にチェックをしてください。



三重大学教育学部特別支援教育(准教授)

くりた としか

栗田季佳氏

【著作・論文】

『排除しないインクルーシブ教育に向けた教育心理学の課題—障害者と研究者の立場性に着目して』
(『教育心理学年報』59, 92-106, 2020年)

『偏見や差別はなぜ起こる?—心理メカニズムの解明と現象の分析』(分冊執筆、ちとせプレス、2018年)など



FAX.0749-78-2212

■事務局

長浜米原しょうがい者自立支援協議会
担当：喜田
TEL：0749-78-2144

●アンケート結果(抜粋)

- ・こどもの声をマイクの役割として聞くことは大切であることもわかりましたが、声で表現できない子に対する子には、どうしていくべきかとても迷うのが現実です。
- ・子どもの意見をどれだけ捉えることができているか聞くことができているか。改めて確認する機会になりました。インクルーシブ教育という考え方と照らし合わせると放デイとは何なのか、とふと思ってしまいました。足もとを見直し、事業所として利用者の権利を尊重しつつどのような場を提供していけばいいかを考えていきたいと思えます。
- ・講師の方が具体例をたくさん挙げてくださったのでイメージしやすく、共感できる部分があり良かったです。
- ・班ごとの話し合いの機会がとてもよかったです。話し合う機会をいただいたことは、他の人の考えや理解を知ることができ参考になった。当事者の方が班にはおられ、違った視点から考えを述べられ、とても参考になった。
- ・他事業所の方と意見を交換できる場があり良かったです。
- ・今日の研修でいかに本人の気持ちに寄り添うことがわかりました。
- ・自分自身がこどものアドボカシーについて学習できていなかった。以前は学校に勤務していたが、こどもの意思を大切にするというよりも、特別支援学級に入級し、また、特別支援学校に入学し、そこで力に応じた学習を提供されるのが合理的であり、一番よいと思っていた。今でも、そう思ってい

る部分はある。意思を大切にするのはよいが、個に応じた学習環境に合わせるだけのスタッフがないのも現実である。ただ、当事者の考えを聞いてみると、自分で選択できる部分は、自身の考えや意思を反映させることが大事であり、親や学校が当然のように決めてしまっているのは違うと思えるようになった。

・研修の中で、当事者の意見を聞く機会があり、子どものアドボカシーが擁護されない背景を話し合った。学校（教師）が本人よりも保護者の考えを重視する実態がある。子どもの段階で社会全体が見渡しているわけではないという思い込みが保護者や教師にあり、よき人生の先輩として、本人の希望を聞きながらも、ベターな道を結果的に押し付けている実態。また、保護者が社会的に未熟な場合は、暴力（虐待）も交えて考えを押し付けようとする場合があることなどは、経験上予測が付き、意見も出て共感するものがあつた。当事者の方が、「自分の正直な気持ちを伝えてしまって、さらに保護者相互（夫婦）の関係が悪化する心配」や「親子の関係やきょうだいの関係が悪くなること」「日常から保護者に迷惑をかけ、さらにテストなどでよい点数が取れないことで、正當に評価されていないという思い」などがあり、自尊心を想像以上に下げておられ、遠慮されている実態がある。「自分の思いを伝えることで家族の関係性がさらに悪くなる心配から、自分の思いが言えない」「思いを言っても仕方がない」など、押し付け以外にも、当事者の意識、あきらめもあるのではないかと感じた。（本人が悪いのではなく、培ってきた歴史がそうさせているように感じる）

■評価

学齢期班にてライフステージから見る地域の現状についてグループワークを実施。5グループでのディスカッションとなった。0歳～18歳未満を乳児期、学齢期、思春期のフェーズに分けた書式に、事前に障害児の家族（母）から『育て』について聞き取りを行った。参加者は福祉（放課後デイ職員、教育関係、医療関係者、行政、市議会議員など）と多分野からの参加者により多角的な視点での5つの事例を通じて意見交換ができた。

●5つのケース

- 1 湖北地域障害者生活支援センターあ～と
- 2 キッズパーク放課後等デイサービスすまい学舎
- 3 湖北相談処すだち
- 4 フォーラムまこと
- 5 アクト NEXT

【論点の整理】

①乳幼児健診での早期発見

POINT：検査方法 他機関連携

→身体的な特徴（聴覚、視覚など）は「呼びかけに答えない」「目が合いにくい」は行動特徴を見て検査に繋がる。しかし、発達段階等の検査や所見は生活の延長上で見られることが多く、3歳児健診で気づきはじめる事が多い。

→検診—発達支援室—幼稚園（保育園）—療育教室—小児科

関係機関の連携方法及びサービス等は誰が担っているのか？

（発達支援室の役割、発達テストや家族サポート、福祉/医療サービス紹介）

（幼稚園、保育園へのサポート、加配）

(療育教室(言葉の教室など)の役割)
(医療機関との連携(診断、検査など))
(計画相談の契約 ※セルフプランが多い)

⑥家族支援/相談

POINT: 障害受容へのサポート、不安への緩和

→子育て時期には子どもを中心としたイベントが多くある。

例えば、乳幼児検診もその一つであり、予防接種や進路、宮参り、兄弟姉妹との関わりなど、子どもを育てることへの不安や障害理解などメンタルサポートがあまり無い。(福祉サービス等の使い方や金銭的負担など)

こどもアドボカシー研修でもあったが文化的な背景から子育てに線引きする事が難しいため自助が優先されてしまうことが多くあるような印象。

◎進路相談

POINT: 幼稚園/保育園から地域の小学校、中学校 高校中退

- ・合理的配慮に差がある(加配)
- ・数回実施される発達テストの理由と所見が子どもたちの教育、支援にどのように活かされているのか?
- ・放課後等デイの利用要件について各市町により違いがある
- ・進路相談時は児の特性や地域の学校の体制に大きく影響される。自らが選択できる環境にはない事が多くある。
- ・高校進学するが集団や学力についていけなく不登校やひきこもり等になる事が少なくない

■今後の課題(継続課題)

①上記④~⑥について整理し必要なサービス、支援について考え、提言・提案できることをまとめる。協議する上で「こどもアドボカシー」の視点を大切に。(こどもの自律を促すためにもこの視点を持った支援者が必要になる)

(2) 専門的人材班

■検討テーマ

- ①支援者が頼りたい支援者の育成
- ②事業所を越えた専門的人材の活用の検討

■参画事業所等

座長: 井下山貴(ライフまいばら)

参画: (米原市児童発達支援センターてらす/湖北相談処すだち/スポーツひろばアクト NEXT/ひだまり/いぶきやま/ひかり園・輝湖里/あっぷでーと/滋賀県立リハビリテーションセンター/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課/相談支援事業所ピットイン)



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月2日 10:30~12:00	神照まちづくりセンター会議室 A	9
第2回	7月7日 10:30~12:00	長浜まちづくりセンターIC 会議室	11
第3回	9月8日 10:30~12:00	長浜まちづくりセンターIC 会議室	11
第4回	11月28日 10:30~12:00	神照まちづくりセンター会議室 A	11
第5回	1月29日 10:30~12:00	長浜まちづくりセンターIC 会議室	11
第6回	3月5日 10:30~12:00	神照まちづくりセンター会議室 A	13

■評価

専門的人材班の目標について、メンバーと一緒に課題を出し合い、そこからどのような取り組みができるかをメンバーと一緒に出し合い、取り組むことが出来た。セラピストの連携と発達しょうがいの専門的な支援と二つのグループに分かれて、取り組みを始めた。来年度は、各グループでより具体的な取り組みが期待できる。課題としては、参加人数が少ないので、この二つのグループに少しでも関わりがある方は参加していただき、より多角的な視点で協議を実施したい。

■今後の課題（継続課題）

①専門的人材班セラピストグループ・・・「PT」「OT」「ST」等のセラピスト同士の連携・スキル向上、しょうがい福祉現場での専門職としての視点の共有、また事業所を越えた専門的人材の活用の検討が必要。

②専門的人材班発達しょうがいグループ・・・圏域内の事業所の発達しょうがい支援の中心となる人材の育成と事業所を越えた専門的人材の活用について検討すると同時に、行動しょうがいの方の受け止めについて、事業所等の環境整備や人的配置における加算等の検討が必要。まずは、実態把握のためのアンケートを実施する。

(3) 成人高齢班

■検討テーマ

- ①成人期以降の方の支援について
- ②行動しょうがいのある方の支援について
- ③高齢支援者とのつながり

■参画事業所等

座長：氏原優（ほおずき作業所）/副座長：曾我英男（ふくらの森）

参画：（湖北相談処すだち/いぶきやま/ひかり園・輝湖里/やまぶき/えがお/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市健康推進課/あそしあ/ひので/ゆるり/障害者支援センターそら/滋賀県発達障害者支援センター/長浜市しょうがい福祉課/相談支援事業所ピットイン）



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月8日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター2AB会議室	15
第2回	7月7日 13:30~15:05	長浜まちづくりセンター1C会議室	12
第3回	9月5日 13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室A	14
第4回	11月17日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第5回	1月19日 13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター会議室	15
第6回	3月15日 13:30~14:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	11

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

●上記第5回会議は勉強会を実施。

テーマ：「しょうがい者の高齢施設での実態」について

講師：特別養護老人ホームふくら副施設長

■評価

今年度当初、強度行動障害に関するアンケート集計を分析し、結果をもとに次への展開を考えていく予定で進めていたが、アンケート内容の分析結果や見直し、修正等が必要ということになり、アンケート内容は次年度以降、専門的人材班内の「発達しょうがい支援G」で再検討するかたちとなった。また、年度途中から班の方向性を高齢しょうがい者への支援、介護保険への施設移行を中心に議題をシフトして進めた。現状、圏域の主に通所施設利用者の年代はどうなっているのか。事業所の困り感はどこにあるのか等を実態調査するために動き出した。

■今後の課題（継続課題）

- ①圏域の通所施設等の利用者の実態調査（高齢に伴う困り感の把握）
- ②しょうがい福祉×高齢福祉の現場レベルでの人材交流や勉強会を実施する中で、支援スキルの共有や互いの制度理解を深める必要がある。必要に応じて高齢しょうがい者に特化した施策の提案をおこなう。

3 社会資源環境部会

■目的

部会のテーマ【まちづくり】を実現するために、「住む」「暮らす」なかで不安を抱える人たちが安心して生活できるように地域啓発や地域とともに活動する。そのためにも、「権利擁護虐待防止班」「重介護医療ケア検討班」「あるべき姿検討班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理などをおこなう。

■参画事業所

部会長：河井孝典（重症心身障害者通所施設えがお）

世話役：高山徹/鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/障害児者地域生活ネットワーク支援事業）

参 画：（権利擁護虐待防止班/重介護医療ケア検討班/あるべき姿検討班のメンバー）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	9月21日 13:30~15:30	神照まちづくりセンター多目的室	12

※会議の開催前にコアメンバー（部会長/座長）でコア会議を実施。

(1) 権利擁護虐待防止班

■検討テーマ

- ①当事者のエンパワメント
- ②ユニバーサルデザインのまちづくり
- ③移動手段の充実
- ④虐待通報後の経過、第3者の視点、虐待の背景等を通じた未然防止のための研修等の実施

■参画事業所等

座長：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

参画：（ひかり園・輝湖里/ヘルプモア/湖北みみの里/マルチスイッチ/えがお/湖北基幹相談支援センターふらっと/あそしあ/湖北地域障害者生活支援センター「あ〜と」/CIL だんない/長浜市民生委員児童員協議会/ビオラ/米原市権利擁護センター/長浜市権利擁護センター/大空ひだまり/長浜市しょうがい福祉課/米原市社会福祉課/こほく自立応援センター/相談支援事業所ピットイン）



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月27日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	14
第2回	5月25日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	18
第3回	6月22日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	18
第4回	7月27日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	15
第5回	8月24日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	17
第6回	9月28日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	17
第7回	10月26日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	19
第8回	11月30日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	15
第9回	12月28日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	16
第10回	2月22日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	14
第11回	3月28日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	10

■活動実績（定例会議以外の活動）

- ・ 10月14日 10:00~15:00に班メンバーと車いすユーザー13名で「長浜きもの大園遊会」に参加。目的は、車いすユーザーことを知ってもらい設備と心のバリアフリーを目指す啓発活動。

長浜きもの大園遊会 2023.10.14(土) ソーシャルアクション班 活動予定（依頼）

当日の流れ

9:00~ スタッフ集合

（着付け 参加申し込みしている方）

10:00~ 5名の参加者の受付と着付け 開始 → 順次散策

13:00 集合

集合場所 晴天：えきまちテラス3階 雨天：黒壁アーケード
荒天：さざなみタウン1C会議室

記念撮影とウォーキング啓発 趣旨説明

大通寺までウォーキング！！

14:00~14:30 会場到着 会場でのイベントに参加

15:30 お疲れ様でした！

さざなみタウンへ戻り、着替えと後片付け

17:00~17:30 解散予定。

当日、午前中・ウォーキング等、スタッフとしてご参加いただける方を募っています。ピットイン鍵弥までご連絡ください。

08085152036・h-kagiya@hot.open-mind.jp

よろしくお願い致します！！



■評価

2グループに分かれての取り組みを実施（ソーシャルアクションG/バリアフリーマップG）。ソーシャルアクションGの啓発ウォーキングでは、長浜きもの大園遊会に車いすユーザーとともに参加することで権利擁護啓発に繋がった。バリアフリーマップGは現在進行中。今後、虐待防止に関する

る取り組みを模索している。

■今後の課題（継続課題）

- ①移動弱者の移動手段の保障のために現制度の柔軟な活用や新たな施策の発案をおこなう。
- ②バリアフリーマップ作成のためのタウンウォッチ等を実施する中で、しょうがい者への差別解消や権利擁護の啓発をおこなう。
- ③気づかないうちに利用者の権利侵害や虐待をしまっているケースも報告されていることから、支援者が日頃の支援を振り返る機会として、湖北圏域独自の「虐待防止自己チェックシート」を作成し運用を目指す。
- ④虐待研修や虐待ケース等のケーススタディを通じて虐待防止への取り組みを推進する必要がある。

(2) 重介護医療ケア検討班

■検討テーマ

- ①重度訪問介護
- ②災害対策
- ③医療ケア児者の暮らし
- ④医療との連携

■参画事業所等

座長：近藤真美（重症児者相談支援センターてくてく）

参画：（えがお/かけはし/湖北基幹相談支援センターふらっと/CILだんない/滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター/ビオラ/障がい者相談支援センターほたる/長浜市しょうがい福祉課/米原市社会福祉課/大空ひだまり/長浜赤十字病院/湖北健康福祉事務所/ふらす P/市立長浜病院/長浜養護学校/米原市児童発達支援センター/当事者ご家族/浅井東診療所/相談支援事業所ピットイン）



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月20日 13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室	16
第2回	5月18日 13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室	16
第3回	6月15日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	13
第4回	7月20日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	16
第5回	8月17日 13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室	19
第6回	10月19日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	21
第7回	11月16日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	18
第8回	12月21日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	17
第9回	1月18日 13:30~15:00	神照まちづくりセンター会議室	
第10回	2月15日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	12

※上記第3回の活動（医療的ケア、重介護を必要とする方の災害対策として、自宅周辺の状況把握、自治体の防災状況の把握）の概要



【市立富永小学校から富永橋約900m】
 ①道幅が狭く、路側帯も狭い。
 ②なだらかな坂道
 ③浸水2.0m～5.0m未満、泥溜り・河川浸食の可能性あり。



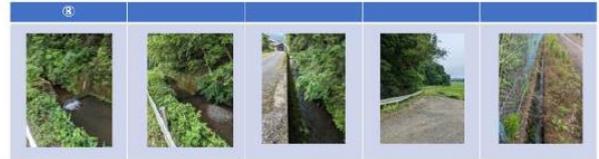
【富永橋から地区公民館(高野集会所)】
 ④なだらかな坂道。
 ⑤広い歩道があるが、田んぼ側へは転落の可能性あり。
 ⑥浸水2.0m～5.0m未満。



地域の避難所(高野集会所)

キッチン	フロアリング		
トイレ	事務所		
玄関	スロープ		
出入口			

・土砂災害警戒区域
 ・バリアフリー
 ・ソーラー発電、蓄電
 ・電話、充電機あり
 ・駐車場10台可



【地域の避難所近く】
 ⑦高路工として整備されている。土間に砂防ダムあり。
 ⑧山は個人の持ち物。



【集会所から自宅】
 ⑨坂道が続く。
 ⑩道の両側に溝有。あふれそうになることもある。
 ⑪歩道なし。

民生委員さんのお話

- ・近年、高時川から水があふれて浸水したことはない。
- ・富永橋まで水が上がってきたことはない。
- ・水路は多いが調整されているため、あふれたことはない。
- ・土砂災害で避難になったことはないが、市町村合併の前は見回りが必要なことはあった。

自治会長さんのお話

- ・過去に大きな災害はない。
- ・自治会で避難訓練実施。集会所に集まってもらう。各戸に放送設備有。組長さんもいる。
- ・水などの防災物品は置いていない。
- ・自治会に福祉委員会あり。
- ・空き家が多くなっている。

会場より①

- ・街灯・防犯灯はあるか？
 →古い防犯灯なる。100mに1個くらい。
- ・冬はどれくらい雪が積もるか。
- ・除雪した状態で1mは越える。横には散水あり。道は市の除雪車が車で雪がある状態。散水があるところもあり。
- ・道の段差や凸凹は？
 →高低差はあるが段差は少ない。
- ・集会所のスロープの大きさは？
 →車のスロープと同じ大きさ。鋭角に曲がる部分あり。
- ・高野の人口は？
 →230人くらい。キチキチで入れるかな？
- ・そのうち障がいのある方は？
 →5人以内。要支援者は3人程度。
- ・発電機や電源は？
 →農家の集積にある。ガソリンで動くかなり大きいもの。行事のときに動かしてメンテナンス。ソーラー発電機、蓄電池もある。

<p>会場より②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や避難するにお手伝いが必要な人はどれくらいいるのか？ →福祉委員会等で話し出るが人数の把握はできていない。 ・自治会内での連絡方法は？ →放送機、名簿に載っている。 ・集会所の駐車場は？ →10台、+大きなグラウンドあり。 ・在宅避難時に備蓄はあるのか？ →ない。大雨・洪水に関しては在宅避難の方が安全。土砂災害の場合は、1週間以上降り続く場合でなければ大丈夫と言われている。 ・自治会の避難訓練はあるのか？ →ある。雨降は参加、本人はなし。 <p style="text-align: right;">18</p>	<p>ヒアリング</p> <ol style="list-style-type: none"> ①電源が多くなると改装時にコンセントを多数設置。 ・エアマット・酸素・吸引器・加湿器・人工呼吸器・電動ベッド ・SpO2モニター・そよマット(暑くなった時) ②災害時に備え、蓄電池あり。4つあるが容量が小さいものもある。在宅避難するにしても電源がいつまでもつか。2階に避難するにしても必要な電源が取れない。 ③集会所まで行けるのか。荷物も多い。集会所の方が危ないのではないかと話もある。 ④停電が起こった場合、呼吸器業者へ連絡へ行くのが一番早い。先日の停電も連絡があった。ANPY。 ※なるべく多くの人に現状を知ってもらいたい。家での生活を見てほしい。 <p style="text-align: right;">19</p>
---	--

■評価

防災対策については、昨年度から引き続き実施。重度医療ケアのある方の暮らしから防災について多くの課題が明らかになった。後半は次年度に向けて圏域の医療的ケア児の実態調査の準備をすすめている。

■今後の課題（継続課題）

- ①重心児・医療的ケア児の実態調査を行い、今後圏域内で必要な資源を知る。その上で足りない資源については、施策提案等をおこなう。
- ②昨年度から実施している個別ケースを通じた災害対策について、他のケース等を実施予定。現実的で実行性のある個別避難計画の策定が必要。
- ③医療的ケア児者が事業所を利用するときに、主治医指示書が必要となることがあるが、書式の統一がされていない。主治医の指示書があることによって通所が難しくなるという実態もあることから圏域内で一定のルール決めが必要である。（当初、福祉サービス利用時の主治医指示書の手引き作成プロジェクトを実施予定であったが、諸事情によりプロジェクト会議での活動が難しいため作業班で協議）

(3) あるべき姿検討班

■検討テーマ

- ①国制度、新たな施策等の情報を収集、推察し圏域として先を見据えた取り組みを考える。
- ②上記を反映した協議会研修会の企画、検討

■参画事業所等

座長：山瀬道範（ひかり園・輝湖里）

参画：（えがお/ひので/マルチスイッチ/湖北基幹相談支援センターふらっと/CIL だんない/ひだまり/長浜市しょうがい福祉課/米原市社会福祉課/ソーシャルインクルー長浜大寺・長浜高月/長浜市視覚障害者協会/相談支援事業所ピットイン）



■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月13日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	13
第2回	6月1日 13:30~14:45	長浜まちづくりセンターIC会議室	14
第3回	8月3日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンターIC会議室	14
第4回	10月16日 10:00~12:00	長浜まちづくりセンター多目的室	23
第5回	2月1日 15:30~16:30	長浜まちづくりセンターIC会議室	10

■活動実績（定例会議以外の活動）

- ・ 上記第3回会議は勉強会を実施。
 テーマ：「長浜市総合計画」「長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

人口減少社会にあっても持続可能な長浜市を目指して

●●長浜市における人口の展望●●

2060(令和42)年に人口規模8.8万人の維持及び人口構造の若返り

長期的展望を達成するため、次の2つの目標を掲げます。

- 【目標1】合計特殊出生率を2020(令和2)年の1.5を起点として、5年間で0.1ずつ上昇を図り、2035(令和17)年に1.8へと到達 ※2017(平成29)年1.48
- 【目標2】39歳以下の世代で、2020(令和2)年を基準として、5年間で10%ずつ移動率を増加

目標1、2を達成した場合

長浜市の人口の推移と長期的な見通し

2060(R42)年の推計人口は、「国立社会保障・人口問題研究所」が推計した値と比較すると、10,796人の増加分が見込まれます。

長浜市の高齢化率の推移と長期的な見通し

高齢化率(65歳以上人口比率)は、社人研推計では2060(R42)年には36.69%まで上昇する見通しですが、2050(R32)年の34.09%をピークに、2065(R47)年には32.29%に低減されると見込まれます。

目標のとおり人口構造の若返りが達成されたとしても、2015(H27)年に比べると高齢化率は5.41%上昇し、高齢者一人を現役世代が約1.68人で支えるという厳しい状況に変わりはありません。また、15～64歳の就業人数は16,000人、総人口に対する割合は3.7%減少し、労働力不足に陥る可能性が高いです。そのため、総合戦略では、人口減少対策のみではなく、女性やアクティブシニアが働きやすい環境を整備やICTの利活用を始めとした、就業率の向上や労働生産性の向上を図り労働力不足を補完するとともに、地域共生社会の実現などにより、あらゆる人に住みよい持続可能な長浜市を目指します。

長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略

長浜市人口ビジョン

概要版

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

◆長浜市の人口動向

■想定を上回る人口減少

2013(平成25)年と2018(平成30)年の国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口の比較

- ・2013(H25)年の社人研の2015(H27)年の推計に比べ実績となる同年の国勢調査の人口は4,121人減少
- ・2060(R42)年には7,942人まで差が拡大
- ・全体的に減少したため、高齢化率等は想定と大きな乖離なし

【想定を上回った要因】

- ・5年間で出生数が10%減(全国平均は6%)
- ・転出超過が想定11倍以上
- ・特に20代の転出超過が顕著

※将来推計人口の推計方法
「将来推計人口」は、5年毎に行われる国勢調査による人口を基礎(基準人口)として、合計特殊出生率は同水準(本市は約1.56)前後で推移、直近5年間の移動率が、今後も継続すると仮定して国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が推計したものです。

■若年層(特に女性)の転出超過

2014(H26)～2018(H30)の世代別社会動態
社会動態とは転入による移動のことで、5年間で2,540人の転出超過(人口減)となっています。

【社会動態の特徴】

- ・男性は転出も多いが転入も多い
- ・女性は転出は男性より少ないが転入はさらに少ない
- ・特に20代女性にその特徴が顕著で転出が最も伸びている
- ・転出先は彦根市が最も多い
- ・県外(特に東京圏)への転出が増加傾向
- ・30～44歳のいわゆる子育て世代の転出超過は改善傾向にあるが依然マイナス

出典：遊覧推計人口年報

- ・ 上記第4回会議は構成団体すべてを対象とした研修会を実施
テーマ：「持続可能な地域社会をめざすための地域循環型福祉経済という考え方」
講師：金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科 橋川健祐氏

●アンケート結果(抜粋)

- ・ 福祉と経済の深い関係と、視点がよくわかりました。
- ・ 事例について、もう少し具体的に知りたかったです。
- ・ 福祉経済の視点から見た地域共生のポイントは、やはり事業所と行政と地域のかたとの話し合いかと感じました。

■評価

リアルな現実から延長線上の未来を想像するあるべき姿検討班。リアルな現実には横目に見つつ、福祉×地域経済にて新たな可能性を想像するあるべき姿検討班。現状整理するとあるべき姿検討班の進む方向性が選択できるかと思う。参加者皆さまのご意見を踏まえて今後の方向性を定める。

■今後の課題(継続課題)

- ①これからの湖北圏域(人口減に伴う労働人口の減少等)を考えた上で欠かせない生活の基盤となる福祉サービスの充足の為の実態調査。
- ②福祉の仕事が地域経済を循環させる大きな役割があるという考えのもと、地域と福祉の連携運動

をどう考えていくか、圏域としての取り組みが必要。

③新たな施策への提案等を考えていく中で当事者の社会参加という取り組みを推進していく必要がある。

V 全体会議

I 第1回全体会議（映画上映会含む）

日時	場所	参加者 (人)
9月25日 10:00~20:00	長浜まちづくりセンター多目的ホール 長浜まちづくりセンターIC会議室	166名

<p>令和5年度第1回長浜米原しょうがい者自立支援協議会全体会議開催要項</p> <p>1. 概要</p> <p>今年度、各専門部会およびプロジェクト会議で協議・検討した結果を全体会議で報告し、自立支援協議会の活動・在り方について見直す機会を設けるとともに圏域の情報共有や支援の方向性の統一を図る。また、上映会を通して設置要綱（目的）に掲げる「しょうがいのある人たちが住み慣れた環境で、また住みたい場所で、生き生きと暮らし、ともに育ち学び続けられる」社会づくりについて考える機会とする。</p> <p>設置要綱 より抜粋</p> <p>第3条(目的)</p> <p>住み慣れた環境で、また住みたい場所で、いきいきと暮らし、共に育ち学び続けられることを目指し、しょうがいのある人たちとその家族、および教育医療労働福祉その他携わる関係者が一緒に課題を整理・協議して、解決していくものとする。そして、それを達成していくために、障害者権利条約や障害者基本法をベースとした、湖北地域全体で包括するような社会モデルのシステム・施策を立案し、推進していくことを目的とする。</p> <p>第7条（会議）</p> <p>(1)全体会議</p> <p>構成機関の代表からなる全体会議を設置し、会長が議長となり、事業全体の計画、実績、方向性について協議・報告を行うとともに、地域の現状や課題等の情報共有及び施策の提言を行う。</p> <p>2. 日時</p> <p>令和5年 9月25日（月） 13:00~15:30</p> <p>3. 場所</p> <p>長浜まちづくりセンター（ながはま文化福祉プラザ） 2階多目的ホール（多業型） ※新型コロナウイルスの感染拡大によって開催スタイルの変更あり。</p>	<p>4. 内容</p> <p>①事務局からの提案 「長浜米原しょうがい者自立支援協議会設置要綱」の変更について報告。</p> <p>②各専門部会からの事業報告(30分) ・部会長およびプロジェクト座長</p> <p>③新規事業所紹介 ・令和5年4月~令和5年8月末までに開設した事業所</p> <p>④映画道単の上映(95分) ・『道単』 解説：ヘルパー（介護者）付きでひとり暮らしをする知的障害者の人々を追ったドキュメンタリー。自閉症や知的障害、自傷・他害といった行動障害がある方々の多くは入所施設や病院、あるいは親元で暮らしているのが実情だが、2014年の重度訪問介護制度の対象拡大により、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きのひとり暮らしができる可能性が広まった。東京の街角で介護者付きのひとり暮らしを送る知的障害者の人々を追ひ、介護者とのせめぎあいや、道単をしながら散歩する何気ない日常の姿を通して、しょうがい当事者と健常者がともにある街の新しい選択役を見つめていく。</p> <p>5. タイムテーブル</p> <p>13:00 開 会 13:05 会長あいさつ 13:10 事務局より提案（要綱について） 13:15 各専門部会・プロジェクト会議からの事業報告 13:45 新規事業所紹介 13:50 休憩（5分） 13:55 道単上映（95分） 15:30 閉 会</p>
---	--



いできました。いつでもどこでも外出できる環境の中で、経験を積むことが大切だと思っていました。

・介助者の障害に対する理解と介助者同士が自分と違う考えと触れる会話の機会が必要と感じた。内容として非常に良いと感じました。ただ、全てを見せたい(撮影したものを)という思いがあるのか、最後は間延びしたように思えた。もう少し編集して時間を短くしても良いのではと感じた。

・しょうがい者本人が一生懸命生活している姿が大変心に残った。本人と介護者との長い信頼ができて始めて成り立っていると感じた。家族の方の思いも理解することができて良かった。

・強度行動障害のある方への関わり方や生活について見る事ができて良かった。強度行動障害があっても自立生活ができるんだということはとても勉強になりました。

・多くの方々にもっと見て欲しい。

・来年度も上映していただきたいと思います。

・生き方の多様性。社会の中で、その人らしく生きられるよう支援したい。

・当事者の方たちが地域でどのように過ごしているのかを少しでも知るきっかけになりました。

・強度行動障害をもつ方たちの生活を支える支援者の思いが強く感じられた。

・とても良かった。よい勉強になった。

・あまり関わったことがない障害であり、とてもよく知ることができた。

・とても温かい内容でいろいろ考えることができた。ありがとうございました。

・このような企画をまた行なって欲しい。

・強度行動障害は、一人ひとりそれぞれ違うと知っているが、直接の支援者へ悩み苦勞を改めて感じました。家族の思いとなると、もっとだと思いました。

・福祉サービスの枠を超えた人と人とのつながりに胸が熱くなりました。この圏域でも、実現すると素晴らしいですね。有意義な時間をいただきました。ありがとうございました。

・この地域でも、あれだけの支援が使えると良いなと思いました。

・ヘルパー時代を思い出しました。とても良かったです。ありがとうございました。

・愛のある支援者の言葉が良かったです。散歩で、ずっと先を歩く支援者は気になりました。コミュニケーションの苦手な人にとって、Pecs はやはりとても大切と思います。

・画面の中で介護者が こういった人たちもここにいる。今ここにいる意味がある。と言っていた。そこが一番印象に残った。どんな状況でも姿でも命を無駄にせず、生きていく。意味があって、みんな生きている。

・まずは、重度知的、自閉症者が街中で、白い目で見られない地域になってもらえればと思います。

・両親の気持ちや強度行動障がいへの支援の仕方や、特性など勉強になりました。

・大変リアルな映像を見せていただき良い勉強になりました。いろんな障害を持っておられる方、またその周りの方の現状が見られて良かったです。何か今後障害者の見方が変わりそうです。ありがとうございました。

・たくさん障害のある方を見てきましたが、これほどまで実直に記録されていて感心しました。行動障害の青年が明るくなっていかれる様子、介護の方がずっと付き添っておられる様子が素晴らしいと思いました。やまゆり園のことも入れてくださって良かったと思います。

・どんな重い障害を持つ人でも、地域の中で生活を送ることができる大切さと、それを支える支援体制と地域の理解を得ていくことの難しさを考えさせられました。

・支援者の方との信頼関係の必要性。何もわからない子でも気持ちは通じると思う。

・湖北でも実現できることを願います。時代に沿った柔軟な支援を。

福祉人材不足、知的障害の方への重度訪問介護の支給等々課題はいろいろあると思いますが。

・日々の生活を自閉症の方々が支援員と家族に見守られながらするなかで、日々成長をされていることがわかり良かったです。主人公が支援される人々と交流することの大切さを学びました。

・とても良い映画でした。自立した生活とは何かということを考えさせられました。

・障害を持たれている方の現状が見れていい経験でした。

今、私たちが関わっている障害を持った方の将来を考えるきっかけになったし、支援の仕方もまだまだ広い可能性があって、今関わっている人たちにいい形で広がってくれたらと思います。

・しょうがい者への理解が深まり、今後の参考になりました。

・要介護者の自立には支援者はもとより地域社会の支援が大切であるかが理解できた。

・この人たちの日常がわかって良かった。この人たちに、周りの人がいるんだと知りました。リョウスケ君は絵がとても良かった。それぞれ良いところをみつけて生きて欲しいと思いました。

・いきいきして試行錯誤をしっかりと良い環境をつくって行ってすごいと思いました。勉強になりました。次回もあれば参加したいと思います。

・しょう患者の方々にどの様に接し、対応していけば社会に適応できるのか？いろいろと考えさせる事です。

・当たり前前に生活するのは当たり前ではないと思いました。

・本日はありがとうございました。民生児童委員に呼び掛けてくださり感謝しております。自分らしく生き生きと生きられる、地域の人たちと支援の方と家族ぐるみでお付き合いできることに感動いたしました。ぜひ、長浜市内にこのような自立支援の輪が広がり根付いていけますよう心より祈ります。

・どんなに重い障害があっても一人ひとりの生き方生活がある。生き方の選択肢の中で重度訪問介護があるのはとてもいいことだと思いました。介助者の人が本人の力を信じて係わっている、またはヘルパーと本人との間の関係性がとっても素敵だと思いました。映画をみて障害を知るではなく実践できる一つとして欲しい。長浜市でも行動障害がある人が重度訪問介護を使い自立生活にて一人暮らしがどんどん増えて欲しいと思いました。

・リョウスケさん、ヒロムさん、ユウイチローさんの日常生活を介助者、親との関わりが丁寧に映し出されていました。私も生活支援員として、どういう関り方をしていけば良いのか考えさせられました。観に来てよかったです。ありがとうございました。

・「しょうがいのある人もない人も、意味があって生まれた」の言葉が考えさせられました。

ありがとうございました。

・日常生活のリアルな姿を知ることができました。ありがとうございます。ヘルパーや親子のあり方を考えさせられました。

・関わり方によって、笑顔がみられると思った。

・しょうがいの支援というのは、大変難しく思います。が、うまくやれば、その人が変わっていく事ができるという事がわかる様な気がした。

・同性介護が完全になされていた。重度の知的障害の人が一人暮らしをしている例はそんなに多くないと思うが、支援体制で可能になることを映画を見て学んだ。他害行為が酷く度々入院しているユウイチロウさんが、外出の際コンビニでの支払いの場面で、財布から小銭を出す前に「時間がすごくかかります」とレジの人に言っていたのが印象に残った。学んでいける力がある人なので他害行為をしない方法を学んで行って欲しいと願う。

・24時間の支援を確保するのは大変だろうけど、家族のような関係が築けて、本人の成長にもつながっているだろうと思いました。長浜でも支援の輪が広がって欲しい。

・介護といえば老人介護しか思いうかばなかったが、この映画で新たに勉強になることばかり。私にできることはほんの限られたことしかできないが、せめて私なりに理解していこうと思う。

自閉症、重度障害といえども、一人ひとり特性が違うので、一人の人としてその人の特徴を充分に理解し、自立に向かって長い目で温かく支援しておられる姿に考えさせられました。ありがとうございました。

・日常のリアルな様子、姿を知ることができました。普段の生活の中に溶け込んでいて、当事者、支援者、家族、その他関わる全ての人たちが生きて生活していてその一部を知ることができて良かったです。ありがとうございます。

・障害者の日常の姿が非常によく表されていた映画でした。感動しました。「道草」というタイトルもいい。出演されていた方がゆっくりじっくりと生きて欲しいと思いました。支援員たちの真剣な取組にも感動しました。

・しょうがい者にとって介護者との意志の疎通がいかに大事な事かということが映画を通じてよく理解することができた。

・いろいろな障害を持っている人を見る介護職員の対応と障害者の自立したいができないもどかしさが見られる。少しずつ良くなってくることを祈っている。

・しょうがい者、介護者、支援者、まわりの人々、みなお互い支え、一步一步を前を向いて。

・しょうがい者に対する理解は身近にそういう人がいないとなかなかいかできないと思う。その人を支援する事は大変だし、信頼が大切だと感じました。その人が自立して暮らしていくと言っても周りの人や家族の理解と協力が絶対必要だと思います。私は民生委員をしていなければ、この上映に参加しなかっただろう。世の中の皆がしょうがい者さんに対する理解がまだ十分できていないと思います。皆が十分に理解、支援、協力できるような研修、勉強会が多くあることを望みます。本日は参加できて大変良かったです。自分の今後の活動に活かしていきたいです。ありがとうございました。

・障害の方の理解認識について、ほんの少しだが高まった。(ドキュメンタリーだからこそ)

重度知的障害の方の行動に関して、一般の健常者から理解を得ることは、非常に厳しいものがあるのではないかと。共生には、多くの方のフォローがいる。

介護の方の精神的また金銭的ケアも必要ではないか。

・重度知的障害者の暮らしが大変だということがよくわかりました。

・高度障害がある中でも、保護者、介護者、周囲の協力、関わりで自立していけるのだなと感じました。時間はかかるかもしれないけれど、その個人に合わせたペースを大事にしながら、常にその対象者のことを考える自分らしさを引き出してあげることが必要だと思いました。本人の思いに耳を傾けることが何かのきっかけになると感じました。

・障害者の生の生活、それを支える家族、介護の苦労など、自然な形でいい映画だと思いました。

しょうがい者リョウスケ君を介護者と共に家に住んで、生活や暮らしをできるようにもっていついてる。

・しょうがい者と介護者の関係の実際を見られてよかった。みんな、自然との触れ合いで気持ちを落ち着かせている。

・要介護者と介護者の関係で人と人との関係を大事に描いた作品で感銘を受けた。ただ、大半良い所を見せたもので、トラブルがあったと時の対応をもう少し見てみたかった。

・支援者の方々の大変な努力を感銘しました。

・自分の周りには障害の人がいないので、とてもびっくりした事ばかりでした。支援する人、介護する人の大変な事がわかりました。家族の方の大変さもわかり、良い体験になりました。

・介護支援のみなさまの協力がなければ3名様の日々のすごし方がありません。どうか、穏やかに日々を前へ前へ。今日は、ありがとうございます。感動しました。

・この映画を見て一緒に生活してもらえる介護があることにびっくりしました。私の親戚のおじさんも重度のしょうがい者(なたを持って歩く様な状態)で父が苦労していました。昔はこの様に支援があれば良かったと思います。良い映画だと思います。

・上映会に参加して良かった。

・「寄り添う」という言葉を使うが、簡単な気持ちではできない。何十年かかっても難しいと感じて、とても一言で何か言える気持ちは難しいと思った。今日、この上映会に参加して良い体験ができ

ました。

・なかなか、この様な上映を見るのがなく、3名のドキュメンタリー、とても現実的で良かった。ご家族の思い、支援者の思い、すごく伝わってきました。

・地域の中で、生活を送ることは難しいことが多いですが、本人の選択、気持ちを大切にしながら介護者も一緒に過ごせればと感じました。“なぜ、この人たちはいるんだろう、何か意味があるのではないか、意味がある。”と話されていたのが印象的でした。

・長い道だけど、皆に見守られながら自立の支援していく大切さを感じました。介護者の熱意、工夫など非常に感心させられました。こんな世界があること、大変参考になりました。

・介護人の方の大変な献身、本当に頭が下がる思いです。当事者の方々が少しでも安心して、心から安らかに過ごせる日々が送られる事を願っています。

・民生委員として、地域で障がい者と関わることも多いですが、長い時間をかけて対応していく事が大事ですね。ご家族、支援者の方々ありがとうございます。

・うちの在所にもユウイチロー君によく似たタイプのしょうがい者がおられ、ご両親が大変苦勞しておられます。映画のように経験豊富な支援者の介在があれば、ご両親も地域住民も本人が随分救われるのではないかと思います。映画を撮影監督された穴戸さんが、一人ひとりのしょうがい者としてしっかり時間をかけて丁寧な関係づくりをされていたのが伝わってきて、自然体の彼らの日常を撮ってくださったことに感謝です。もっと食事の内容を改善することで、症状が和らぐ可能性もあるように思います。チラシの絵も素敵です。ちゃんと登場人物が描かれていることに鑑賞後に気づきました。

・今日はありがとうございました。映画を見ていると、喉が痛くなる感じで泣けてきました。この意味は、これから気づいてくる事があると思います。今、私の地域で障害者の方がおられ悩んでいます。とても参考になりました。ありがとうございました。

・ありがとうございました。本人も家族も介護の方々の生活を見て心が打たれました。私の息子も軽度ですがハンディキャップがあります。気持ちがとても軽くなりました。

・いろいろなしょうがいがあるのだと思いました。介護の方法も、その人にあった介護があり、それを話し合いながら実施しておられる。並大抵の事ではないですが、本当に大変だと思いました。周囲の私たちもそれを理解しなければいけないと思いました。

・障害者事業の人たちが、社会で世の中でいきいきと生きていけるように支援する介護支援員として仕事をさせてもらっている自分にとって、とても勉強になりました。しっかりと向き合い対話を大切に私なりに支援していきたいと思います。親子さんの葛藤も心にしみました。

・私は放課後デイサービス職員なのですが、訪問介護の現場をリアルでみたことがなかったので、とてもリアリティがあり、現場の実態を知ることができました。行動障害、他害、しかも都会の人が多く、利用者の意志を尊重して、外出等を行うのはとても苦勞等があると思います。いろいろと考えさせられました。ありがとうございます。

・仕事の中で知的障害者の方と係ることはありますが、その方たちの日々の暮らしというものは見たことがなかったので、今回の「道草」はとても参考になりました。

・私は小学生の支援の子の放課後クラブに勤めています。この映画をみて子の子らが大人になったらと考えて一人ひとりの顔がうかんできました。障害をもって生きている子、それを介護する人、現実を目の当たりにみて考えさせられるものがありました。

・複雑な気持ちになりました。周りの人の大切さを感じました。

・しょうがい者との共存の理解が世の中で当たり前前の社会である事の大切さが今まで私自身避けてきたと思います。当たり前前に生き共に社会の一員としていける社会となる事を皆が理解できる支え合える社会にしたいです。今、私自身、支援の困難さにも困惑しています。

・分からなかつた。伝わってこなかった。

・現実的な日常生活の細部を見るのは初めてで、衝撃的であり、私自身現実として理解できない。ま

た知ろうとしない所が多い。障害のある方との接し方、知識等、今の自分には全くなく、その場から逃げるだけしかできない。

・いろいろと考えさせられるドキュメントでした。支援者が必要としている人々（障がい者）は長浜にも多くおられると思います。長浜や米原にもグッドライフさんのような 24 時間介護付きサービスはあるのでしょうか？

・介護者が適切な言葉かけまで、本当に幸せに生活されていることこそ、とても感謝ですが、そうでない人もたくさんおられるでしょうね。ご両親の忍耐強さも大変です。何かご協力したいと思いません。

・係わる事の大変さ！寄り添える事のむずかしさ。伝わらない事のもどかしさ。だだをこねる赤ちゃん、2～3 歳児の世話より大変。様々な障害者のありのままを見せていただき、心が張り裂けそうです。自分なりにどういう支援ができるか考えてみたいです。

・介護者の方に頭が下がります。当たり前だけど、人は一人では生きていけない。周りの人たち、自然、ご縁のある様々なことに支えられてこそ自分らしく生きていく事ができます。今、つながりがとても不安な状態です。私に何ができるか、考え続けたいと思います。

・障害者本人の思い、介護者の関わり方、親の関わり方などドキュメンタリーの中で考えさせられるものでした。地域住民の更なる理解をどう進めるかが課題だと思います。私の立場で、また考えさせていただきます。

2 第2回全体会議

日時	場所	参加数 (人)
3月25日 13:00～15:30	長浜まちづくりセンター多目的ホール	60

<p>令和5年度第2回長浜米原しょうがい者自立支援協議会全体会議開催要領</p> <p>1. 概要 今年度協議・検討した結果を全体会議で報告するとともに、今後の活動内容や協議事項について意見を求め、今後の自立支援協議会の方向性の統一を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>第3条(目的) 住み慣れた環境で、また住みたい場所で、いきいきと暮らし、共に育ち学び続けられることを目指し、しょうがいのある人たちとその家族、および教育医療労働福祉その他携わる関係者が一緒に課題を整理・協議して、解決していくものとする。そして、それを達成していくために、障害者権利条約や障害者基本法をベースとした、湖北地域全体で包括するような社会モデルのシステム・施策を立案し、推進していくことを目的とする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>第7条(会議) (1)全体会議 構成機関の代表からなる全体会議を設置し、会長が議長となり、事業全体の計画、実績、方向性について協議・報告を行うとともに、地域の現状や課題等の情報共有及び施策の提言を行う。</p> </div> <p>2. 日時 令和6年 3月 25日(月) 13:00～15:30</p> <p>3. 場所 長浜まちづくりセンター(ながはま文化福祉プラザ) 2階多目的ホール(併集型)</p> <p>4. 内容 ①各専門部会の活動報告 ②成果発表(『特に報告したい』各作業班・プロジェクト会議における活動の報告) ③自立支援協議会アンケート結果の報告 ④新規事業所紹介 ・令和5年10月～令和6年3月15日までに開設した事業所 ⑤令和6・7年度自立支援協議会会長の紹介・会長あいさつ</p>	<p>5. タイムテーブル</p> <p>13:00 開 会 13:05 会長あいさつ(5分) 13:10 各専門部会からの活動報告(65分) (質疑応答含む) 14:15 休憩 14:25 成果発表 『特に報告したい』各作業班・プロジェクト会議における活動の報告(40分) 15:05 アンケート結果の報告(10分) 15:15 新規事業所紹介(10分) 15:25 令和6・7年度自立支援協議会会長の紹介・会長あいさつ(5分) 15:30 閉 会</p>
--	---



● アンケート結果

- ・部会報告をもう少し詳しく聞きたかった。再編1年目の活動としてはとても充実したものと感じた。次年度の展開が楽しみです。
- ・各部会が取り組んだ成果を報告してもらいわかりやすかった。
- ・通常の会議の並び(グループワーク形式)だと予想していたのですがイメージと違いました。とても良い形だったかと思います。
- ・部会報告がよくわからなかったです。
- ・しょうがい者福祉に各部会が、多方面からの参加者によって積極的に進められ、成果を出されたことは良かった。
- ・自立支援協議会に参加してこなかったため、一度参加をして、もっと知っておく必要があると考えて参加しました。時間制の働き方をしているため、目先の課題に追われて時間の余裕がないこと理由としていました。すみません。
- ・初めて参加させていただきました。いろんな活動をされているのを知れてよかったです。
- ・社会資源マップやPR動画は成果物として(形に残るので)わかりやすい。その他は逆にわかりにくいなと感じた。
- ・地域づくりは地道な作業と感じるが皆がかかわっているというパワーをもらった。
- ・全体会に参加するのが久しぶりだが、長浜・米原の市役所からの参加もあり行政と共に協議会が運営できていくことに望みが出てきました。いろいろな職種、事業所の方と出会えてよかったです。
- ・自立支援協議会の全体像がわかりやすかったので来てよかったです。他の班にも入ってお話をお聞きしたいなと思いました。ありがとうございました。
- ・わかりやすい全体会議だったと思います。
- ・楽しく聞かせてもらいました。
- ・各部会の取り組みが知れてよかった。次年度に向けた課題、取り組みがもう少しわかるとよかった。
- ・初めて参加させていただきました。1年間の成果がわかりやすく報告され、関心を持ちました。アンケート報告にもあったように、関心の低い方への参画へのアプローチを期待しています。ありがとうございました。今後とも

よろしくお願いします。

- ・今年度、初めて全体会議に2回とも参加させていただきました。皆さん熱心に取り組まれてきた成果を発表形式で聞かせていただけたことは大変有意義でした。
- ・報告がメインであればオンラインも導入して頂ければ助かります。
- ・部会報告で各ワーキンググループの活動が活発なのが良く分かった。活動結果がどういった形でアウトプットされているのか(地域住民の方に対して)の話があればよりわかり易いのではと感じた。
- ・マップ作成お疲れ様でした。大変苦勞されたことと存じます。市(ながはマップ)の話もありましたが、広く周知、活用されるためにもデジタル化(提供サービス、開所日、時間等のカテゴリー検索)を検討していただければと思います。
- ・字が小さすぎてわかりにくかった。
- ・部会ごとの報告で事前に資料を頂いていたのでとてもわかりやすかったです。それぞれの部会が改めてどんな活動をしているのか知るいい機会になりました。
- ・次第に沿って時間通りに進行ありがとうございました。
- ・「道草」が良かったので、同様に映画(ドキュメンタリー)なども良いのではないのでしょうか。
- ・長浜米原の圏域の中でどんなニーズが起こっているのか、それに対してどのように取り組んでいこうと考えているのか、また聞いてみたいです。また、各市の予算もうかがえるとありがたいです。
- ・福祉関係者と介護を必要とする方の推移を取り上げて欲しい。(2040問題)

VI その他の会議

■日中サービス支援型共同生活援助定期評価会議

- ・日時：8月16日（水）15：15～16：30
- ・対象事業所：ソーシャルインクルーホーム長浜高月/長浜大寺町

VII 事業所等連絡会

■目的

同種別の障害福祉サービスを運営している事業所が集まり、サービス種別ならではの情報共有や意見交換をおこなう。課題に対して具体的な協議を実施する専門部会とは役割を分け、気軽に相談、他事業所の取り組みなどの共有が出来ることを期待している。

■活動実績

- ・生活介護事業所等連絡会 4月21日（金）10：00～12：00

参加事業所：（ライフまいばら/かけはし/ふくらの森/ゆるり/ひので/あそしあ/いぶきやま/えがお/つつじ作業所/湖北タウンホーム/大空ひだまり/青空ひだまり/ひかり園/湖北まこも/やまぶき/すだち/ピットイン/支援センターそら/長浜市相談支援事業所/ふらっと）

- ・就労支援事業所等連絡会 5月19日（金）10：00～12：00

参加事業所：（ワークスさぼてん/長浜みなみ作業所/愛光園/つつじ作業所/つどい/ほおずき作業所/湖北みみの里/Ohana/あっぷでーと/すだち/ふらっと/ふたば/虹色ひだまり/支援センターそら/ピットイン）

- ・居宅介護事業所等連絡会 7月21日（金）10：00～12：00

参加事業所：（しゃきょうヘルパーステーションあとれ/さぎなみ/あ〜と/かけはし/しゃきょうヘルパーステーションこくあ/ふたば/ふらっと/虹色ひだまり/支援センターそら/ピットイン）

- ・施設入所、GH等連絡会 8月18日（金）10：00～12：00

参加事業所：（湖北まこも/あそしあ/自立ホームすみれ/グループホームカノン/アトラス高月/ひかり福祉会 GH/ソーシャルインクルーホーム長浜高月町/ルピナス/ホームゆきみ/湖北タウンホーム/スカイ高月/支援センターそら/すだち/ふらっと/ピットイン/長浜市しょうがい福祉課）

- ・法人代表者連絡会 9月15日（金）10：00～12：00

参加事業所：（ひかり福祉会/クラブメゾン/CIL だんない/ひだまり/ソーシャルインクルーホーム長浜高月町/おおぞら福祉会/なないろ/つどい/スイビー/真/リアファル/愛光園/障害児協会/長浜市社会福祉協議会/ケアプランほほえみ/長浜市相談支援事業所/長浜市しょうがい福祉課）

- ・放デイ、児童発達支援事業所等連絡会 10月20日（金）10：00～12：00

参加事業所：（キッズ☆station 長浜/キッズパーク放課後等デイサービスすまい学舎/あ〜と/こども

発達サポートカラフル/オハナ/フォーラムはな/キッズ station 長浜セカンド/スポーツひろばアクトNEXT/浜の子園/陽空ひだまり/ふらっと/ケアプランほほえみ/ピットイン/長浜市相談支援事業所/すだち/長浜市しょうがい福祉課)

・就労支援事業所等連絡会 12月15日(金)10:00~12:00

参加事業所:(ワークスさかた/スマイルカレッジ/あっぷでーと/ワークスさぼてん/ほおずき作業所/湖北みみの里/リアファル/虹色ひだまり/ケアプランほほえみ/ふらっと/支援センターそら)

・学卒関係者連絡会 6月15日/8月24日/10月19日/2月29日

参加機関:(長浜養護学校/長浜北星高等養護学校/新旭養護学校/三雲養護学校/鳥居本養護学校/テクノカレッジ/信楽学園/近江学園/長浜公共職業安定所/長浜市しょうがい福祉課/米原市社会福祉課/はたらき・くらし応援センターこほく/湖北基幹相談支援センター)

VIII 提言・提案(課題提起)

1 社会資源マップ作成プロジェクト会議より

・障害福祉サービス事業所一覧の継続的な更新と管理、冊子作成のための予算の確保が必要ではないか。また、公的機関や病院、介護保険事業所、飲食店等の店舗のバリアフリー情報なども網羅した本当の意味での「社会資源マップ」が必要ではないか。

2 生活の充実部会(当事者サポーター推進班)より

・障害を持つ方々が一般的なタイミングで地域生活を考える機会、また、実現する為の手法や情報を得ることができているでしょうか?自分らしい暮らし方を考える機会が適切にあることや、将来に向けて準備をしていくプロセスは、全ての人々に公平であるように望みます。

・どんな場所で、どんな人と、どのような暮らし方をしたいのかを、全ての人々の多くは、希望と妥当性をもって選択し、今の暮らし方に至っています。

【地域生活塾】に関連する背景

■背景①

湖北圏域では、ここ数年、民間のグループホームの参入もあり、日中支援型、アパート型、古くからのホームが混在し多種多様に広がりました。選択できる住まいの場は、充実してきているようにも感じます。

また、グループホームだけでなく、入所施設を生活の場とする方々やご家族と共に暮らすことを含めて、暮らし方はさまざまです。

しかしながら、グループホームの空き状況が変わらない現状も見受けられ、ニーズとのミスマッチが生じているか、適切なタイミングで住まいを考える機会が無いのか、後者も理由の一つなのでしょう。

地域で自分らしく生活する考え方の一つとして、入所施設からグループホーム、グループホームか

らアパートへ暮らしの場所を社会と身近にしていくことが求められています。

しかしながら、しょうがい者の方々は、一般的に安心感のある暮らし方以上の環境を必要とされたり、また、障害年金やそれ以外の不安定な収入を頼りに生活しなければならないことも多く、それが故、適切なタイミングで住まいや暮らし方を考える機会すら持てないのかもしれないかもしれません。

■背景②

上記のような実情もあいまって、地域での生活をトータル的に考え、具体的なイメージを膨らませることや仲間と繋がりあいながら気付きや自信を得て、学ぶ環境が求められ、自立支援協議会の中で【地域生活塾】が誕生し、今日まで手探りの状態で運営がなされてきたのではないかと考えています。

■背景③

取り巻く社会は、目まぐるしく変わり働き方やリスクマネジメント、そして持続可能な視点も持って、物事の仕組みを考えていくことが求められ、【地域生活塾】においても、実際の運営を通じ、そのような課題に直面をしているところです。それは、人々が協力し、限りある社会資源を最大限に発揮できる仕組みとなるよう、工夫を凝らさなければならないということです。

■【地域生活塾】の運営上の課題

課題① 継続的な運営の仕組み

これまでは、自立支援協議会の当事者サポーター推進班の中で【地域生活塾】を運営してきました。塾生は、応募用のチラシから募り、毎回、3～15名程の申し込みがありました。

運営上、塾生をサポートするスタッフが必要であり、これまでは、運営当初から携わるスタッフ、参加する塾生の支援者や有志を含めて、協力が得られてきました。

法人のスタンスや運営状況、様々な要因を受けて、継続的に講座の運営に携われるスタッフの協力を得ることが難しい状況になってきています。また、参加する塾生に応じて、塾生に関わりのある支援者等の参加協力を得られました。それは、塾開催年度が変わると、ある程度のスタッフが入れ替わることを意味しています。合わせて、講座自体の運営が終われば、会議等には、継続して出席することは、難しくもありました。

講座運営の当日は、ある程度スタッフの配置が必要です。また、講座を安定して運営する為のポイントや進め方等を会議にて共有しており、適宜、同席できるようなスタッフの参画の仕組みを理想としています。また、スタッフが継続して参画できることは、【地域生活塾】のビジョンを明確にし、継承する為の大切な意識統一を図れるものだと考えています。その点において、どのような形を取れば良いか、参画のしやすい仕組みについて検討する必要があります。

課題② (適切なタイミングで) 暮らし方を考える機会

【地域生活塾】では、数年毎に湖北圏域に配布するチラシや福祉職からの情報提供等を含めて、塾生を募り、情報をキャッチしご自身のタイミングで申し込みをされていたことと思います。その時点で暮らし方を考えるきっかけを得ることとなります。

今後、もしかしたら自分の生活を考える機会が無いまま、親亡き後に、突然に住まいの選択を迫ら

れたり、思いもしない所で生活スタイルが大きく変わることになる可能性があり、そのようなことも一定数はあるかとは思いますが。

一般的には、人々は進学や就労によって自分自身の暮らし方を考えるのではないのでしょうか？また、その後の人生の様々な出会い等によるタイミングもしかりです。しかしながら、情報が得られにくい環境や状態にある方の場合は、どうでしょうか？その機会は、十分に得られるのでしょうか。

この【地域生活塾】が継続的に開催されることで、湖北圏域では、自分自身の暮らしや将来の生活へ思いを巡らせるきっかけとなり、また、【地域生活塾】に参加するタイミングも選択できます。参加しない方を含めて【地域生活塾】が存在することは、全ての方々が自分自身の暮らしや生活スタイルを考えるきっかけを作ることに繋がると考えています。それが当たり前の社会へ、【地域生活塾】は、その一歩となる存在に。

課題③ 暮らしを仲間と共に学びあう環境

【地域生活塾】の特徴は、前向きな目標や思いを持つ塾生と共に学び合える環境です。また、講座の参加を通じ、塾生の将来の生活にイメージが持てたり、新たな目標や自信を得ることもできました。そのような場が充実することは、大きな成長や経験に繋がると考えていますが、そのような環境や場は多くありません。

課題④ 安心や安全性の担保/塾生とスタッフの怪我や賠償責任の補償

前々から【地域生活塾】では、塾生やスタッフの怪我やその他の運営上の安全を担保する為に、ボランティア保険に加入していました。安心できる講座の運営は、考慮を重ねますのでこれまでに保険金を請求することがありませんでしたが、万が一に備えることは必要なことです。

【地域生活塾】で加入をしている『ボランティア行事保険』は、活動内容に応じて、加入できる内容が決まっており、事前登録の必要性があります。その為、年間通じて、継続性を持ってして、スタッフが固定化されている方が、ボランティア保険に加入できます。それは、スタッフ側としては、安心して協力でき、運営側は責任を果たすことになります。

また、その点においては、継続して運営していくには、どのように整えて行けると良いのかを含めて、時代に応じたりスクマネジメントが必要です。今後、より具体的に検討をするべき事項でもあります。

課題⑤ スタッフの参画の仕方の統一

これまでに、多様な法人等のスタッフに協力をして頂いており、そのスタンスも様々でした。貴重な時間を【地域生活塾】に頂いている所、公平な参画の仕方を運営側としては望んでいます。

課題⑥ スタッフの参画に対しての報酬/費用負担の所在

【地域生活塾】は、毎月2回の土曜日に開催されており、開催時間も半日程かけて行います。また、各講座の担当スタッフが講座の事前の準備を担い、当日の進行やフォローを行うこともあります。ご協力を頂いたスタッフの方は、法人の勤務内等で参画して頂いているものの、【地域生活塾】のスタッフとしての報酬はありません。

これまでもそのような状況でありながら、法人やスタッフの好意に甘えていた次第です。しかしながら、法人の理念や管理者の好意を頼りにした【地域生活塾】の運営は、継続的に考えると、難しい所でもあります。安定してスタッフの協力を得られたり、法人や事業所が気兼ねなく送り出せる仕組みとなれば、スタッフの確保や継続性に繋がると考えおりますが、具体的案については、検討するべきであります。

また、これまでは、講座の中で市内外出、市外外出の講座の際、講座運営に係るスタッフ配置の為、スタッフに、交通費や施設料がかかりました。各々のスタッフの采配で、法人等の負担やそれ以外の方法で支払いがなされていた所であり、甘んじていました。

その為、今年度はスタッフの交通費や施設料等の負担金額を公平に事業費から支出を試みました。その点も整理して、スタンスを統一して協力できるような形を考える必要もあります。

また、課題④の保険の加入に関してもスタッフの安全安心を確保する為にもスタッフが継続して参画できる方が良いと考えます。

■提言・課題の提起

このような背景や課題において、住まいや生活を考える機会を持つことの大切さや具体的に学べる場としての【地域生活塾】の運営状況を解決していく為の提案として、当事者サポーター推進班としては、住まいや暮らしを考える機会作りを継続して運営することや【地域生活塾】の塾生をサポートする仕組みを安定化する必要性の高まりと共に、ソフト面やハード面の整理を行いながら、プロジェクトとして検討することに決めました。自立支援協議会として圏域の障害福祉サービス事業所、行政、医療教育就労関係者と共に考えていきたいと思っております。

Ⅷ 総括

令和5年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会

会議等実施数	127回以上	(専門部会コア会議/作業班運営会議/事業所等連絡会はカウントに含んでいません)
参画述べ人数	1987人以上	

以上

令和6年3月末日
長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局